

3-2 台渡里廃寺跡（第26次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2874-1 外

調査面積 1,636.5 m²

調査期間 1次 平成17年8月24日
～10月3日

2次 平成17年12月13日
～12月28日

検出遺構 竪穴住居跡8, 掘立柱建物跡11, 溝跡1, 土坑3, 円形有段遺構1, 井戸跡1

出土遺物 縄文土器・剥片・土師器・須恵器・瓦・鉄製品

調査担当 川口武彦・新垣清貴

調査概要 店舗建設工事に伴う照会が提出された。照会地は台渡里廃寺跡の南方地区に隣接する地域であり、台渡里遺跡の範囲に該当する地域であるが、平成15年度に部分的な確認調査を行った際に、南方地区の伽藍に係る遺構の分布が把握されていたことから

(第57図の03N-T3・03N-T4)、台渡里廃寺跡（第26次）として取り扱うことにした。周知の遺構のさらなる広がり把握するため、8月24日～10月3日に確認調査を実施した。

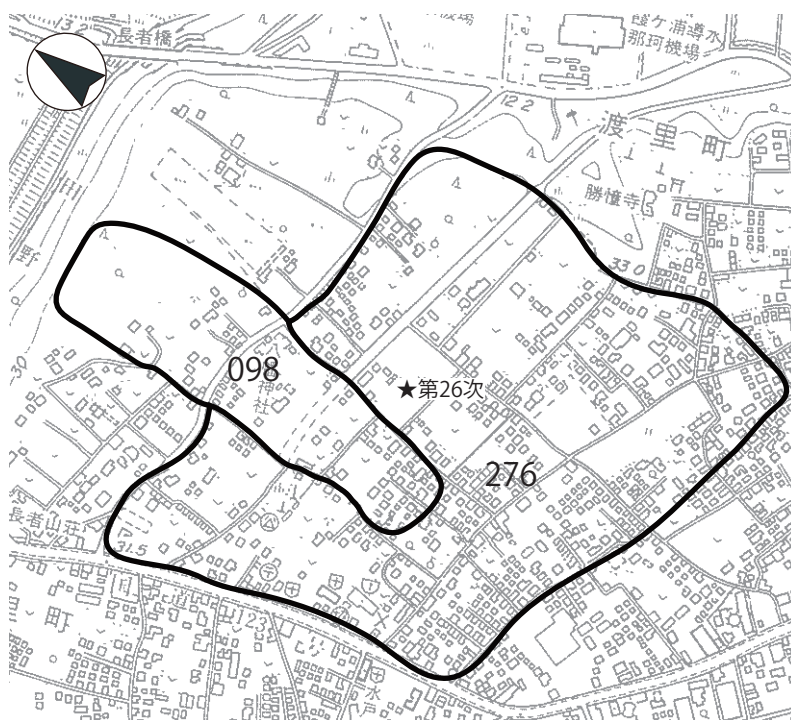
開発対象地にトレンチを5箇所設定し、重機による掘削を行った（第57図の05N-T3～05N-T8）。その結果、殆どのトレンチにおいて竪穴住居跡や掘立柱建物跡等の遺構とみられるプランが検出された。これまで確認されていた南方地区の寺院の東側寺院地区画溝とみられる溝跡や掘立柱建物跡の柱列、7世紀後葉から8世紀前葉の遺物を含む竪穴住居跡等が検出された。竪穴住居跡には一辺が8mを超える規模のものもあり、通常の集落に見られるものとは明らかに異なっていた。また、南方地区の寺院の東側寺院地区画溝の東方より検出された掘立柱建物跡には、柱掘方が1.3m×0.9mに及ぶものもあり、柱間が11尺となるものも含まれていたことから、官衙関係の施設の一部ではないかと予測された。

重要遺構の可能性がことから、8月30日に県教育庁文化課の文化財保護主事を招聘し、遺構の現状を把握してもらった。県の文化財保護主事からは、掘立柱建物跡については規模や主軸が不明であるため、調査区の拡張するよう助言を受けた。この助言を受け、トレンチの部分的な拡張を行った。その結果、SB003とSB004はいずれも側柱形式の掘立柱建物跡であること、SB003の南側からは布掘状の掘方を持つSB006と主軸や柱掘方の規模が異なるSB007が新たに検出された。

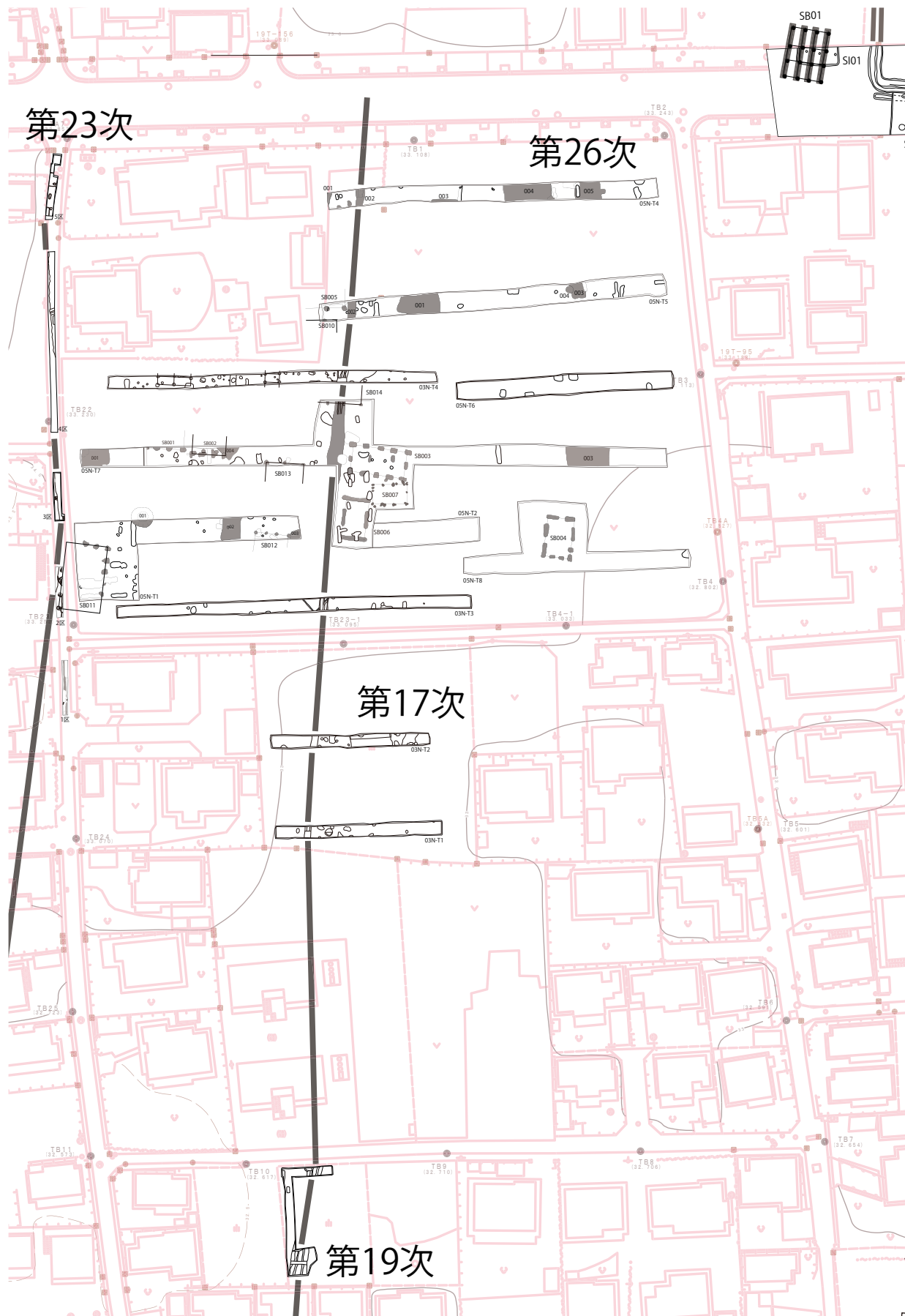
9月29日には、文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部門の文化財調査官を招聘し、確認された遺構の現況を視察してもらった。文化財調査官からは、SB006とSB004の柱筋が並んでいるように見えることから、その間やさらに西側に掘立柱建物跡が並んでいないかを確認する必要がある旨、指導を受けた。これを受け、遺構の広がりをさらに把握するため、12月13日～28日の期間にトレンチを2箇所追加し（第57図の05N-T1・05N-T2）、重機による掘削を行った。その結果、計画地内における遺構・遺物の空間的広がりをほぼ把握することができた。

最終的に確認された遺構は、古墳時代終末期～平安時代の竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡11棟、溝跡1条、土坑1基、円形有段遺構1基、中世の井戸跡1基であった。また、各遺構からは土師器・須恵器・瓦・鉄製品・内耳土器等が出土した。以下では、遺構の確認されたトレンチについて記述を行い、最後に遺物について遺構毎に報告する。

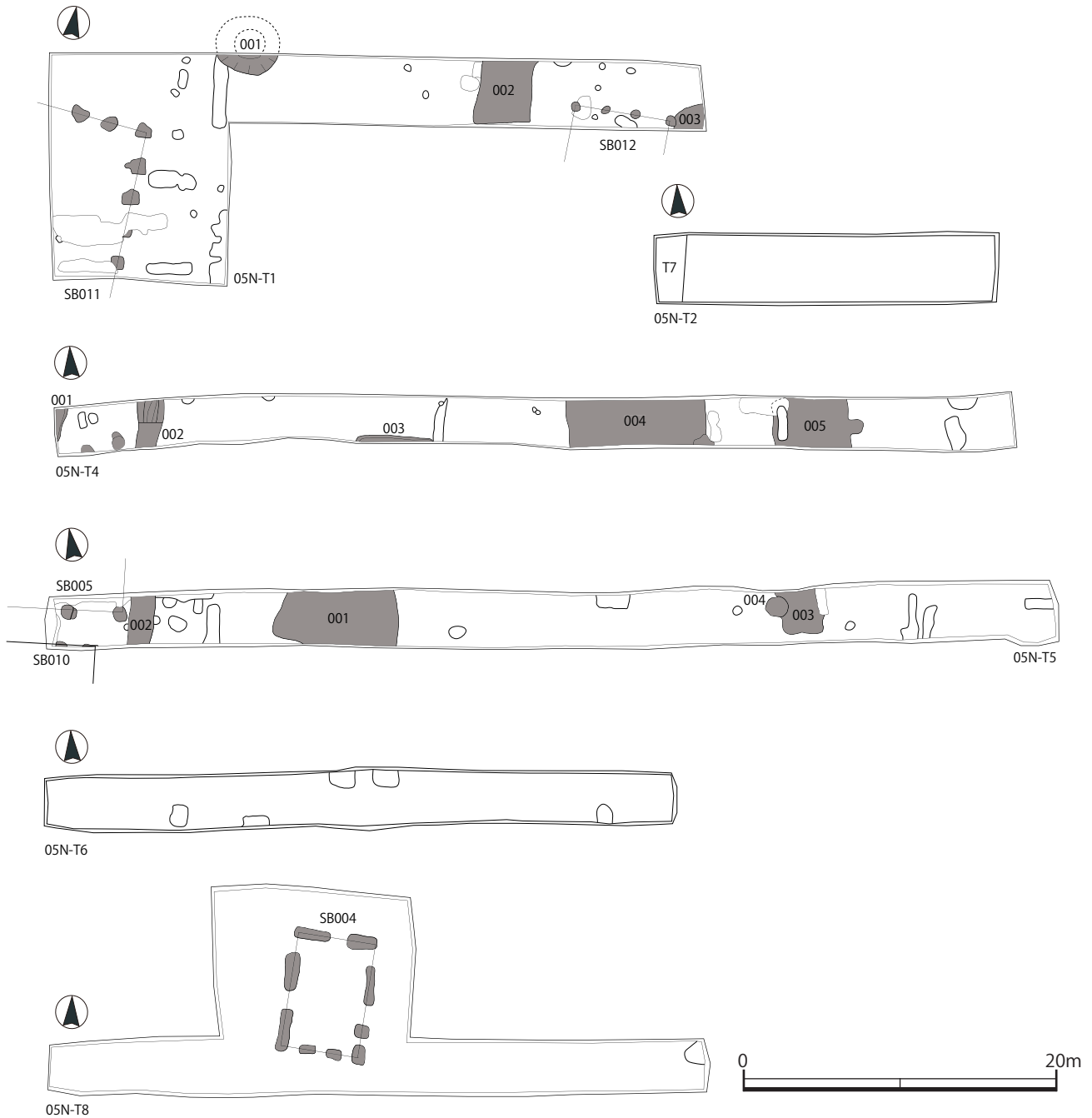
(川口・新垣)



第56図 台渡里廃寺跡（第26次）の位置



第 57 図 台渡里廃寺跡（第 26 次）の位置と周辺の遺構配置



第 58 図 台渡里廃寺跡（第 26 次）のトレンチ平面図①（T1・T2・T4・T5・T6・T8）

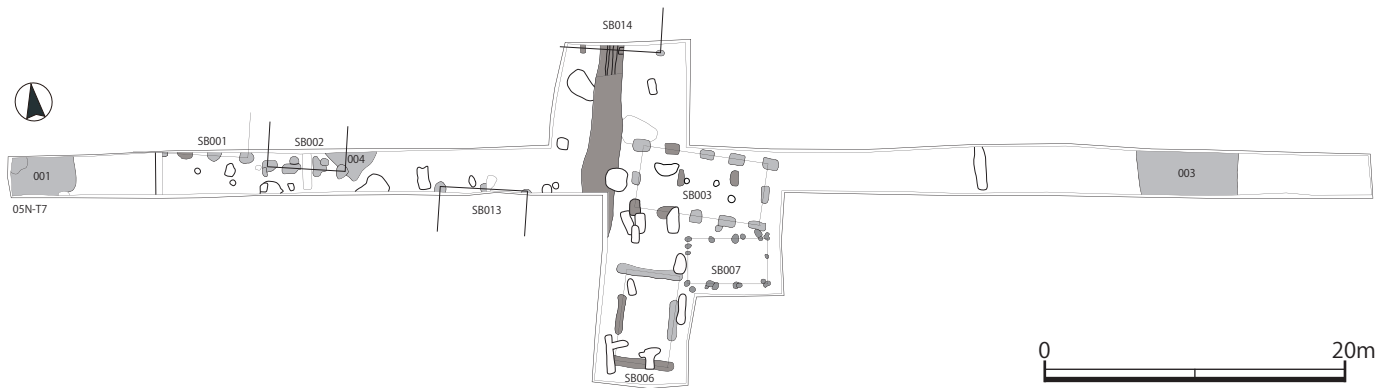
(1) 05N-T1

SB011 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行 5 間以上、梁行 3 間以上とみられ、柱間は 7 尺の南北棟。第 23 次調査の 3 区で確認された掘立柱建物跡と同一の遺構の可能性はある。同一建物跡であるとなつると、桁行 6 間、梁行 4 間程度の規模（南北 10.5m、東西 8.4m）が想定される。

SB012 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行不明、梁行 3 間とみられ、柱間は 8 尺の南北棟。

001 号遺構 円形有段遺構である。東西 4m、南北 2.2m 以上。直径 4m 程度と推定される。内面黒色処理の施された土師器が出土していることから、9 世紀後葉に帰属するとみられる。

002 号遺構 竪穴状遺構である。東西 3.5m、南北 4m 以上。遺物は出土していないことから、時期の判定は困難であるが、中世によくみられる竪穴状遺構の可能性はある。



第 59 図 台渡里廃寺跡（第 26 次）のトレンチ平面図②（T7）

003 号遺構 竪穴住居跡である。東西 2m 以上、南北 1.5m 以上。竈等の付帯施設は確認できていない。出土遺物から奈良・平安時代に帰属するとみられる。

(2) 05N-T4

001 号遺構 性格不明。東西 1m 以上、南北 2m 以上。竈等の付帯施設は確認できていない。

002 号遺構 南方地区の寺院地東側区画溝。上面幅 1.6m、底面幅 0.4m。既往の調査成果から 9 世紀後葉に造営され、10 世紀初頭には人為的に埋め戻されたとみられる。

003 号遺構 竪穴住居跡カ。東西 5m 以上、南北 0.4m 以上。竈等の付帯施設は確認できていないが、004 号遺構及び 005 号遺構が東側に竈を持っており、傾きも似ていることを考慮すると 7 世紀後葉に帰属する可能性がある。

004 号遺構 竪穴住居跡。東西 9m 以上、南北 3m 以上。東側に竈を持つ。出土遺物から 7 世紀後葉に帰属するとみられる。

005 号遺構 竪穴住居跡。東西 5.4m 以上、南北 3m 以上。東側に竈を持つ。出土遺物から 7 世紀後葉に帰属するとみられる。

(3) 05N-T5

SB005 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行・梁行ともに不明。柱間は 10 尺。

SB010 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行・梁行ともに不明。柱間は 8 尺。

001 号遺構 不整形であるが、竪穴住居跡とみられる。東西 8m 以上、南北 3m 以上。竈等の付帯施設は確認できていない。出土遺物から 7 世紀後葉に帰属するとみられる。

002 号遺構 南方地区の寺院地東側区画溝。上面幅 1.6m。既往の調査成果から 9 世紀後葉に造営され、10 世紀初頭には人為的に埋め戻されたとみられる。

003 号遺構 竪穴状遺構である。東西 3m、南北 3m 以上。遺物は出土していないことから、時期の判定は困難であるが、中世によくみられる竪穴状遺構の可能性はある。

004 号遺構 井戸跡である。直径 1.4m。カワラケ及び内耳土鍋が出土していることから、中世の井戸跡とみられる。

(4) 05N-T7

SB001 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行不明、梁行 3 間以上とみられ、柱間は 7 尺。

SB002 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行不明、梁行 3 間とみられ、柱間は 5 尺の南北棟。

SB003 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行 4 間、梁行 2 間、柱間は 7 尺の東西棟。中央やや北寄りに間仕切りに係る可能性のある柱穴 2 基を伴う。

SB006 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行 3 間、梁行 2 間、柱間は桁行 7 尺、梁行 6 尺の南北棟。

SB007 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-0° -E。桁行 3 間、梁行 2 間とみられ、柱間は 5 尺の南北棟。

他の掘立柱建物跡よりも柱穴の規模も小さく、主軸も異なることから、中世以降の可能性はある。

SB013 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行不明，梁行 2 間。柱間は 7 尺。

SB014 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行 3 間以上，梁行不明。柱間は 7 尺。

001 号遺構 竪穴住居跡。東西 4m 以上，南北 3m 以上。竈は確認されていない。出土遺物から 9 世紀後葉に帰属するとみられる。

002 号遺構 南方地区の寺院地東側区画溝。上面幅 1.6 ～ 2.1m。既往の調査成果から 9 世紀後葉に造営され、10 世紀初頭には人為的に埋め戻されたとみられる。

003 号遺構 竪穴住居跡。東西 4m 以上，南北 3m 以上。竈は確認されていない。出土遺物から 7 世紀後葉に帰属するとみられる。

004 号遺構 竪穴住居跡。東西 4m 以上，南北 3m 以上。竈は確認されていない。SB002 に切られていることから SB002 よりは新しい。

(5) 05N-T8

SB004 掘立柱建物跡である。側柱形式で主軸は N-10° -E。桁行 5 間，梁行 3 間とみられ，柱間は 5 尺の南北棟。
(川口・新垣)

(6) 出土遺物

【05N-T1】

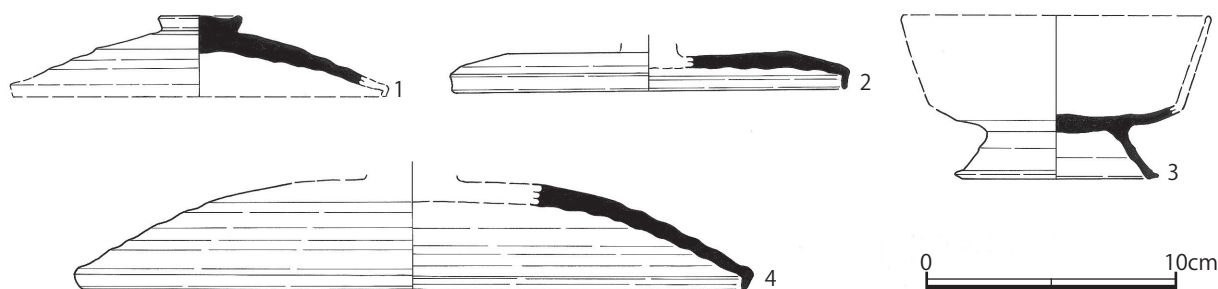
001 号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計 57 点、総量 3,166g である。その内訳は、土師器 32 点 577g、須恵器 15 点 801g、近世陶器 1 点 15g、鉄製品 4 点 12g、礫（含凝灰岩）5 点 1,761g、うちここに図示し得たのは須恵器 4 点である。つまみ部を遺存する蓋（第 59 図 1）は、扁平なつまみ部の形状から考えて、無台杯の蓋であろう。木葉下産。他方ドーム状の器形を呈し、つまみ部を欠失する蓋（第 59 図 3）は、径が 26cm を超える大形のものである。あるいは高盤の可能性もあるが、アセンブリッジから考えると、蓋とした方がより蓋然性が高いとみられる。木葉下産。扁平な器形をもつ蓋（第 59 図 2）は、おりかえし端部は直線的に垂下するもので、緻密な胎土と含有物の僅少な焼成色調の特徴から、猿投産と判断される。やや長くハの字に広がって踏ん張る形状の脚部片は木葉下産である（第 59 図 4）。杯部の形状は不明であるが、有蓋小碗（杯 G）の身に類似した形状を推量することができる。

【05N-T4】

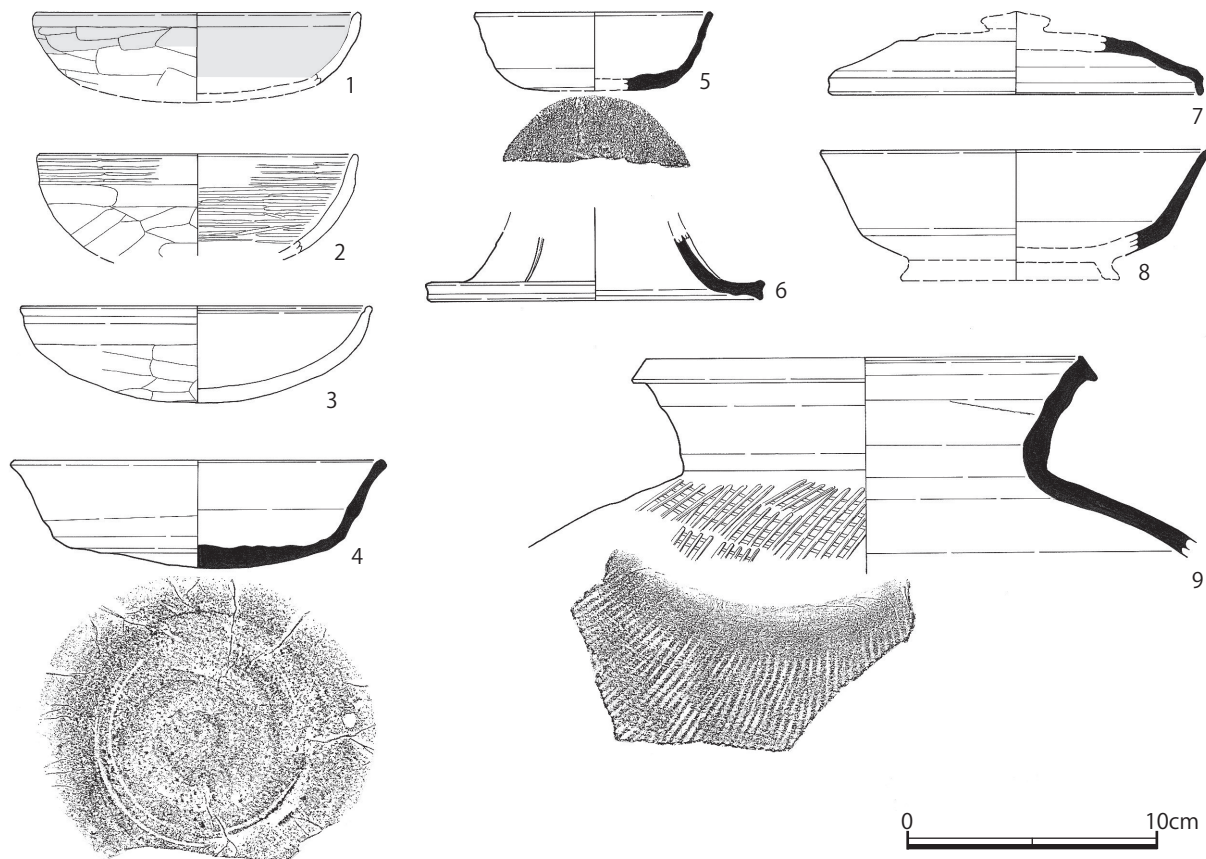
002 号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計 18 点、総量 1,899g である。その内訳は、在産土師器甕類が 3 点 43g、須恵器 3 点うち湖西産蓋 1 点 3g、木葉下産甕類 2 点 64g、瓦 3 点うち平瓦 2 点 238g、丸瓦 1 点 1028g、礫 6 点 523g である。いずれの資料も図示し得なかった。

003 号遺構 本遺跡から出土した遺物は、総計 13 点、総計 218g である。その内訳は、土師器 10 点 127g うち赤色系杯類 2 点 3g、常陸型甕 8 点 119g、鉄製品（鋸力）1 点（12g）、礫 1 点（91g）である。いずれも図示し得なかった。

004 号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計 394 点、総量 6,507g である。その内訳は、土師器 226 点 2,756g うち杯類 71 点 449g、鉢・甕類 144 点 2,264g、須恵器 129 点 1,946g うち杯類 99 点 1,263g、壺甕類 23 点



第 59 図 台渡里廃寺跡（第 26 次）T1-001 号遺構出土土器

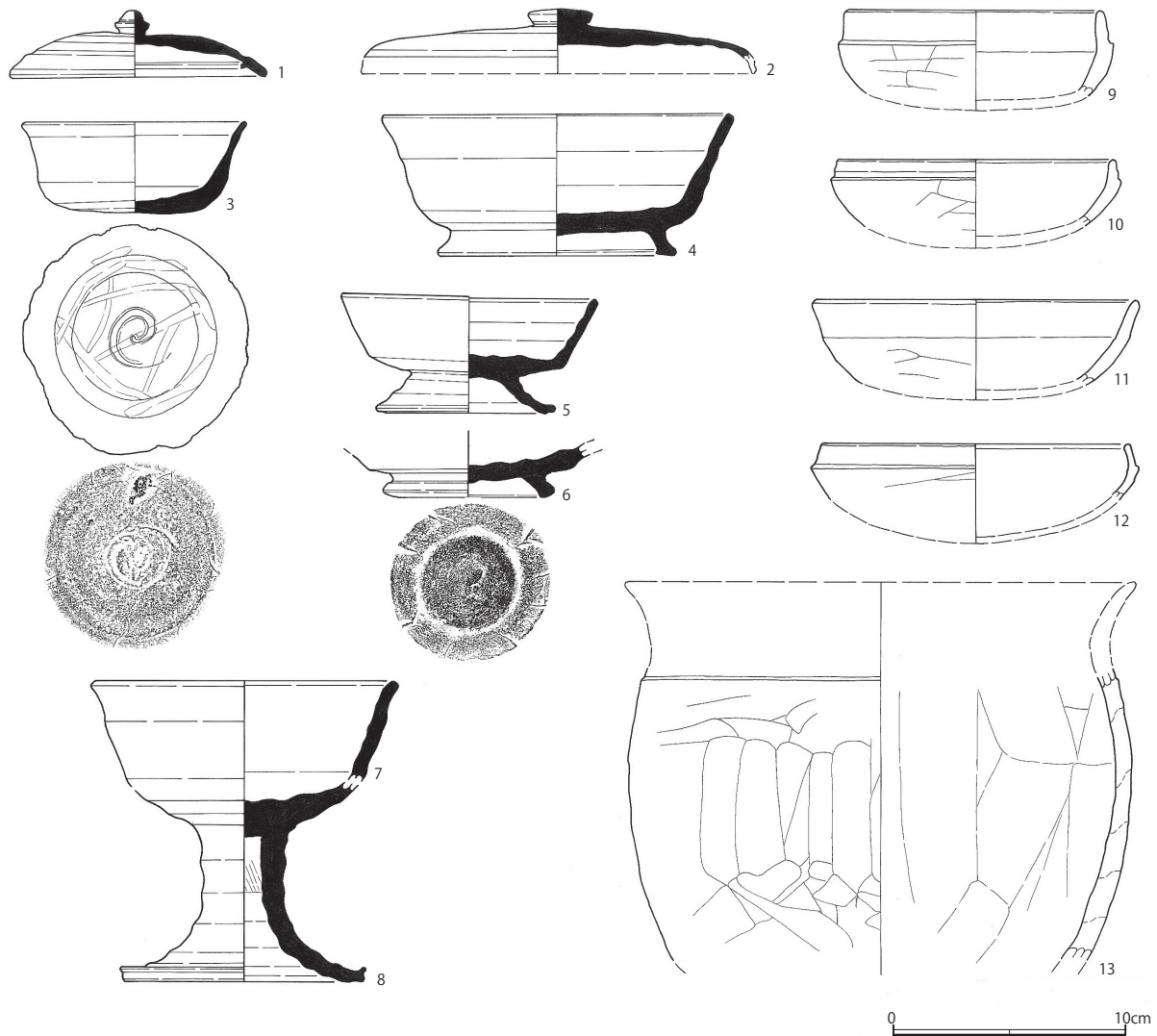


第 60 図 台渡里廃寺跡（第 26 次）T4-004 号遺構出土土器

639g, 瓦 2 点 11g, 礫 24 点 1,395g, 縄文土器 5 点 103g, 中世土器 4 点 46g, 鉄滓 4 点 24g, 砥石 1 点 235g である。

ここに図示し得たのは、土師器 3 点、須恵器 6 点である。うち土師器杯では、一部に剥離がみられるもののおおむね全面漆塗黒色処理が施されているもの（第 60 図 1）、無彩で口縁部外面から内面全体にかけて細かいミガキをかけ光沢感のあるもの（第 60 図 2）、口唇部内面に沈線をもち、無彩であるものの胎土が精緻で、焼成色調が鮮やかな赤色系を示すもの（第 60 図 3）があり、これらは、いずれも口縁部が外傾し、無段有稜の丸底形態をなすもので、古墳時代以来の土師器杯からの型式変化で捉えられる。須恵器無台杯（第 60 図 4）は、有蓋形態と考えられるが、蓋は伴わない。口唇部に面取りがみられ、丁寧な仕上げをうかがわせるが、底部の回転ケズリ調整が浅いためか、底部のみやや肉厚となっている。須恵器小碗（第 60 図 5）は、底部に手持ヘラナデ調整を行っており、平底指向を示す。体部から口縁部にかけては真っ直ぐに外傾し、ロクロ目を遺さない。須恵器脚部片（第 60 図 6）は、後述するトレンチ 5 の 001 号遺構にみられる短脚付盤に類似する形態と考えられる。なお刻目透しをもつ点に相違が認められる。須恵器蓋は有台杯に伴うものと考えられる（第 60 図 7）。つまみ部を欠失するが、折り返し端部をもつ。比較的シャープで丁寧なつくりで、天井部には鮮やかな緑色の自然釉が薄く付着する。須恵器杯体部片は、腰部が強く屈曲し、シャープに外傾する。腰部付近まで丁寧な回転ケズリが及ぶことから、有台杯と判断した（第 60 図 8）。須恵器甕頸部片は、口唇部が短くシャープに突出する。器壁は薄く、胴部外面には丁寧な格子目叩きが施され、胴部内面には当て具痕跡を丁寧にナデ消すことから、湖西産須恵器の技術を意識していると思われる。なお肉眼観察による須恵器の産地同定の結果、7 が湖西産、残りはすべて木葉下産と判明している。

005 号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計 418 点、総量 8,562g である。土師器 301 点 4,845g のうち杯類 74 点 587g（赤色系 17 点 117g, 赤色系暗文 2 点 12g, 褐色系 17 点 109g, 黄橙色系 26 点 211g, 黄橙色系暗文 1 点 5g, 漆塗黒色処理 11 点 133g）、甕類 191 点 4,258g（在地産 150 点 3,355g, 常陸型 40 点 642g）、不



第 61 図 台渡里廃寺跡（第 26 次）T4-005 号遺構出土土器

明 36 点 118g である。また須恵器 86 点 2557g のうち、供膳具類 65 点 2,041g（木葉下産 49 点 1,687g，新治産 12 点 204g，湖西産 3 点 145g，不明 1 点 5g），甕類 21 点 516g（木葉下産 10 点 226g，新治産 8 点 223g，湖西産 3 点 67g）である。このほか礫 23 点 931g（凝灰岩 3 点 24g を含む），鉄 5 点（鉄滓 3 点 97g，刀子 2 点 19g），炭化材 1 点 2g，中世土器 2 点 111g である。

ここで図示し得たのは、土師器 5 点，須恵器 8 点である。図示した土師器坏 4 点はすべて漆塗黒色処理が施される（第 61 図 9～12）。このうち 12 のみが精緻なうすづくりで，他はすべてやや肉厚な器壁をなす。いずれも精良な胎土をもつ。土師器甕（第 61 図 13）は，頸部直下に段をもつもので，胴部は外面タテケズリ調整，内面工具ナデ調整を基調とする精良な胎土をもつ。須恵器では，かえりをもつ蓋（第 61 図 1）と同種の蓋に伴う坏身（第 61 図 3）がある。いわゆる坏 G である。有台坏は完形のもの（第 61 図 5）と台部のみの破片がある（第 61 図 6）。高台端部が外方に突出する特徴をもち，金属器模倣の傾向を強く遺す。こうした有台坏のいずれかに伴う蓋としては，かえりをもつもののほかに第 61 図 2 のような折り返し端部をもつ蓋も考えられる。このようにかえりをもつものともたないものが伴って出土している点は，本資料群の年代的位置や様式的特徴を示唆するものである。第 61 図 8 の脚部は高脚付椀のものともみられ，これも金属器模倣器種のひとつともみられよう。第 61 図 7 は胎土の状況やつくりが類似していることからこの高脚付椀の口縁部と判断した。ただしこの高脚付椀は，器壁が厚く鈍重な

つくりをなすから、おそらく二次的な模倣にとどまっているものと考えられよう。2の蓋のみが湖西産であり、その他はすべて木葉下産である。

【05N-T5】

001号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計1,477点、総量27,906gである。土師器1,225点22,553gのうち坏類374点3,241g(赤色系86点968g,赤色系暗文39点530g,褐色系107点743g,褐色系暗文4点38g,黄橙色系53点439g,黄橙色系暗文15点99g,漆塗黒色処理66点384g,研磨黒色処理4点40g),甕類851点19,312g(在地産531点14,374g,常陸型316点4,845g,東北系在地産4点93g)である。須恵器は252点5,353gである。蓋は52点1,227gで、木葉下産50点1,124g,新治産1点39g,湖西産1点64gである。これらのうち、端部折り返しのものは4点129gで、すべて木葉下産である。それ以外はすべてかえりの付く蓋であることから、本遺構の年代がある程度知られよう。蓋を含む須恵器小形品(供膳具類)は161点4,500g,うち木葉下産156点4,256g,新治産4点180g,湖西産1点64gである。また須恵器大形品は26点676g,うち木葉下産24点623g,新治産1点9g,湖西産1点44gである。また産地不明の細片が65点177g出土している。

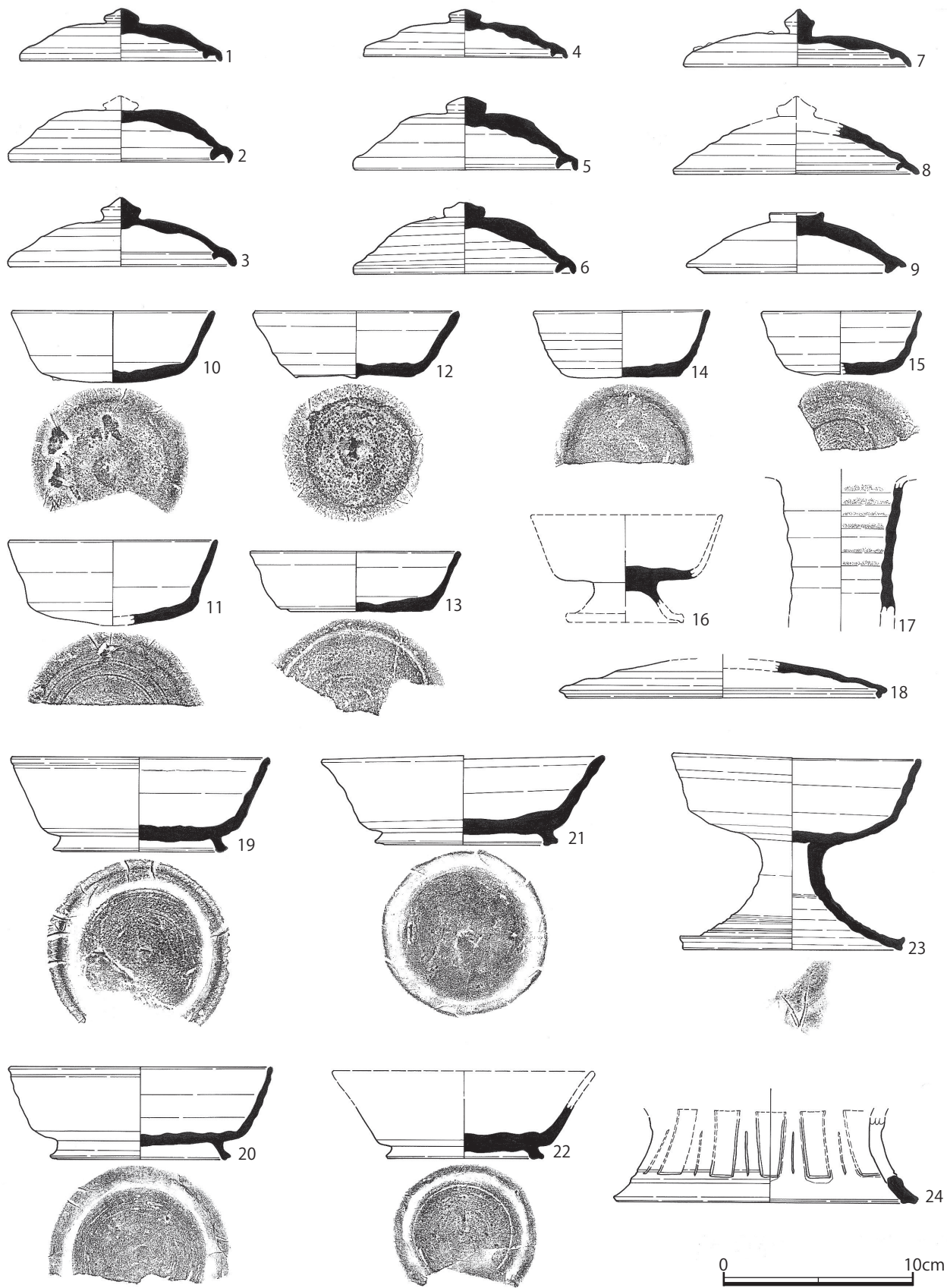
このうち図示し得たのは土師器35点,須恵器32点である。

まず須恵器からみていくと、有蓋小壺(坏G)が主体をなし、蓋はいずれもかえりが伴う。ただしかえりの形態は多様で、型式学的な前後関係を求め得たとしても、これらに対して時期差を考えることは難しい。同様に身についても体部から口縁部へのたちあがりの形態や底部調整において多様さを見出せる。さてこの他に蓋では有台坏(坏B)に伴うとおぼしき折り返し端部のものが出土しているが(第62図18),やや内屈する端部の形態からは、かえりをもつ形態からの退化形態と看做すことができるから、本資料群に共伴する資料と判断して差し支えなからう。新治産の可能性のある第63図8・12・14及び湖西産の第62図9を除けば、おおむね広義の木葉下産として差し支えない。広義の木葉下産には市内田野町所在の山田窯跡群産も含まれる。

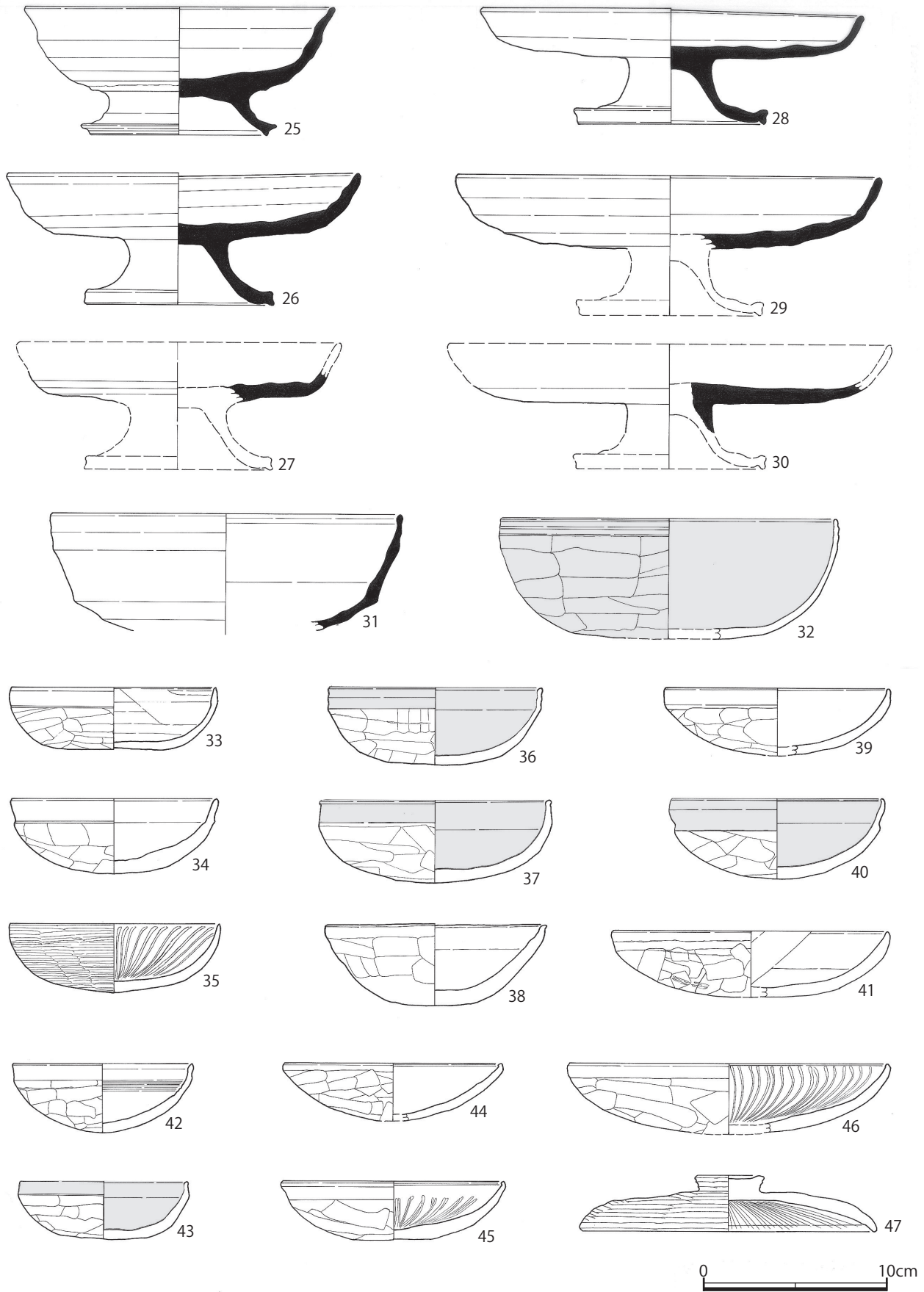
他方有台坏(坏B)では、器壁がうすづくりで口縁部外面に沈線をもつ一群(第62図19・20)と、器壁が厚く鈍重で口縁部から体部へのたちあがりかハの字に開く一群(第62図21・22)とがある。これらは、いずれも広義の木葉下産と判断され、具体的な資料に欠けるがおそらく18のようなものを伴って有蓋形態をとるものと考えられる。つぎに有脚の器種を挙げておくと、高坏(第62図23),短脚付小壺(脚付坏G)(第62図16),短脚付大壺(第63図25),短脚付盤(第63図26・27・28・29・30)などがあり、台あるいは脚をもついわゆる高台器種の豊富さが目を惹く。短脚付大壺は器壁が厚く鈍重ながら、脚端部が外方へ突出する形態をもち、金属器の一次模倣と看做すことができる。他方短脚付盤では口径20cm未満の一群とそれを超える一群とがある。とくに後者は器壁が薄く、丁寧で精巧なつくりをなし、前者と大きな相違をみせる。

壺瓶類では、湖西産長頸瓶頸部(第62図17)と木葉下産横瓶胴部(第65図67)とがある。前者は濃緑色の自然釉が飛散する。そして後者は円盤閉塞技法を用いていることがその痕跡から確かめられる。このほか刻目と透窓とを交互に配置する圈脚円面碗(第62図24)や銅鉢模倣とおぼしき大壺(第63図31)がある。両者とも木葉下産と考えられよう。

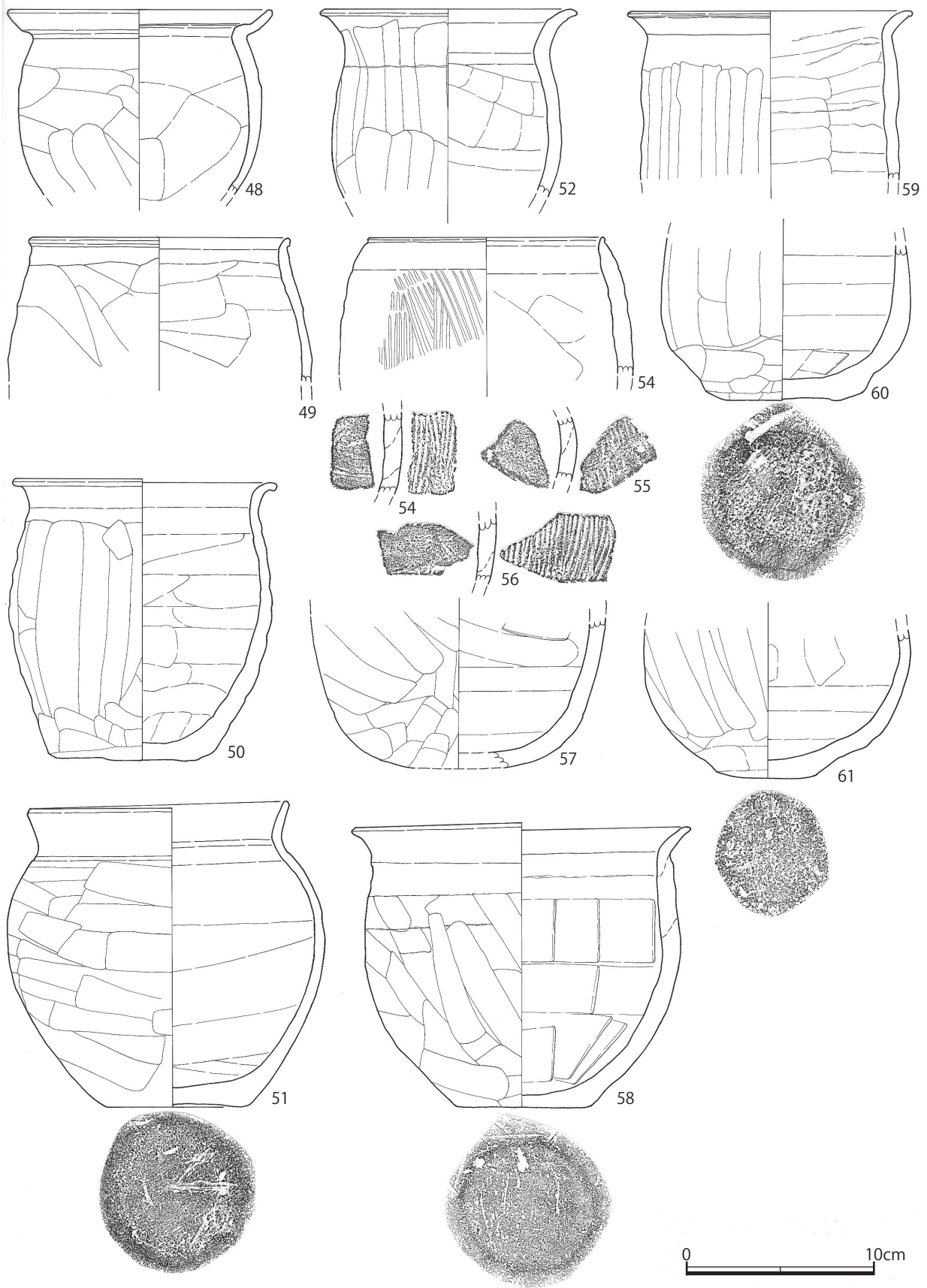
つぎに土師器をみると、坏は口径11～12cmほどの一群(第63図33～40)と口径10cm未満の一群(第▲図42・43)とがあり、古墳時代後期以来の伝統的な器形と技術をもちながら、かなり矮小化傾向にあることがわかる。ただしこれらのなかで口縁部と体部との境に段を形成せず碗状をなし、35のように内面に暗文風の放射状ミガキを施すものは、実測し得なかった小破片のなかにも一定量含まれており、ここに新しい様式の萌芽がみられるのである。また40にみられるような、口縁部が体部との境に段をなした上に内湾しながら立ち上がる形態は、いわゆる「内湾口縁坏」(津野分類F類)に類するもので、下野地域との関わりが想起されよう。これら坏に比べてより扁平な形態をなす皿には、口径15cmをこえる大ぶりの一群(第63図41・46),と口径12cm程度の小ぶりの一群(第63図44・45)とがある。45や46の内面には暗文風の放射状ミガキが施されている。第63図47は、土師器蓋である。内外面を細かいミガキ調整によって整えられており、畿内様式の土師器を在地で模倣したのと考えられよう。32は、無台・無脚の銅鉢を模倣したとおぼしき大壺である。体部から底部にかけてケズリ調整が施されることや内外面に漆塗黒色処理が施されることから、在来の技術によりなったものと考えられるが、口縁部直下に2条の沈線を施すことから一次的な模倣と考えられる。胎土の特徴や焼成色調から、いずれも在地産もしくは



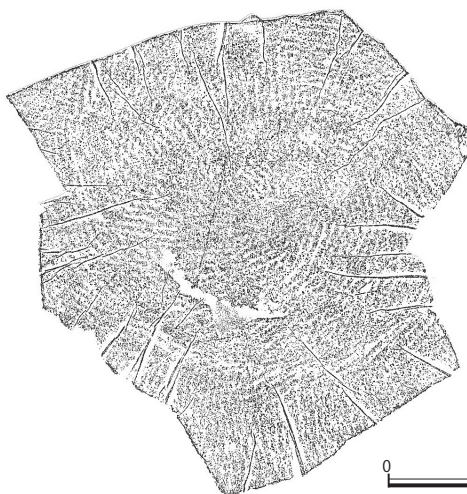
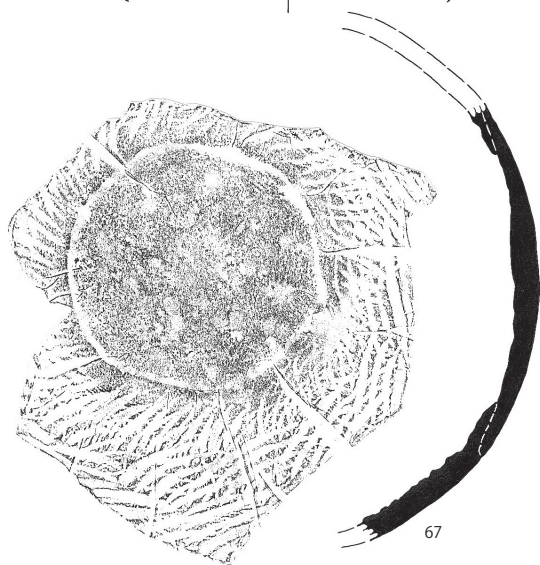
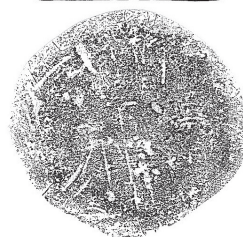
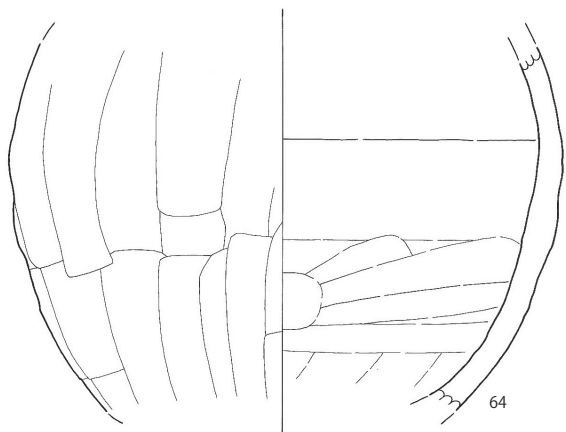
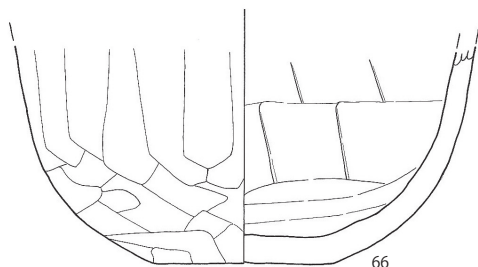
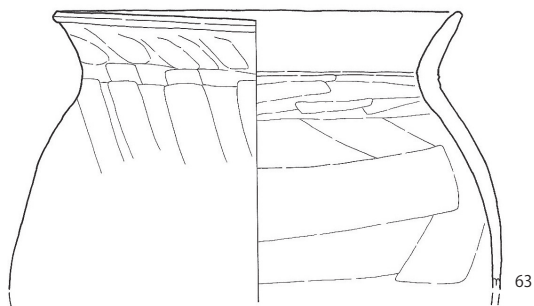
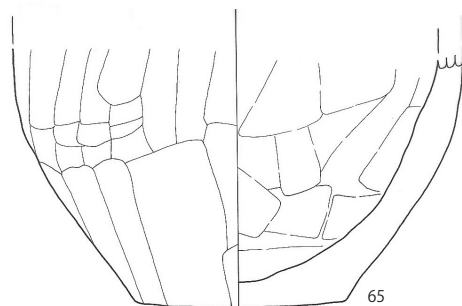
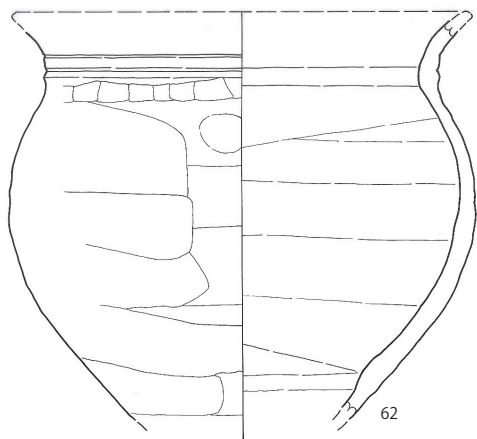
第 62 图 台渡里糜寺跡 (第 26 次) T5-001 号遺構出土土器 (1)



第 63 图 台渡里廃寺跡 (第 26 次) T5-001 号遺構出土土器 (2)

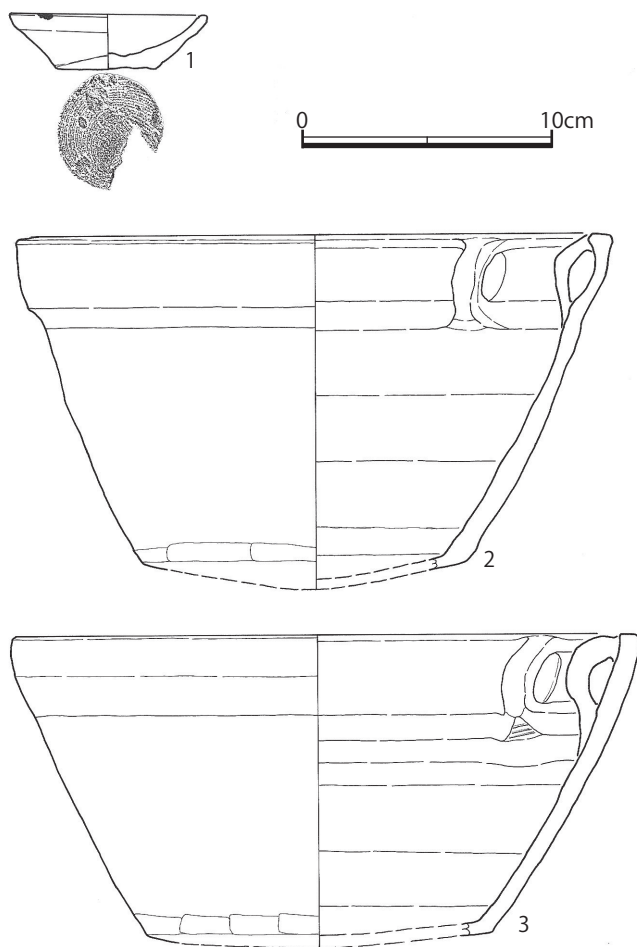


第 64 图 台渡里糜寺跡 (第 26 次) T5-001 号遺構出土土器 (3)



0 10cm

第 65 图 台渡里糜寺跡 (第 26 次) T5-001 号遺構出土土器 (3)



第66図 台渡里廃寺跡(第26次) T5-004号遺構出土土器

する。土師器のうち、坏3点52g、甕26点593g(在地系16点404g、常陸型10点189g)である。須恵器のうち、坏2点12g、甕1点13gである。須恵器はいずれも木葉下産であった。

003号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計19点892gである。いずれも小破片で図示し得なかったが、以下にその内訳を示すことで補うこととする。土師器9点215gのうち、常陸型甕が5点171g、在地産の坏が2点33gで、残りは器種不明の細片であった。須恵器2点のうちには東海産とおぼしき甕頸部52gと木葉下産坏蓋20gがあった。このほか古代瓦片3点456g、鉄滓1点12gの出土が注目される。上記以外では礫3点126gと縄文土器細片1点11gの出土をみた。

004号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計43点12,778gである。第66図1はかわらけである。回転ロクロ成形で底部に糸切り痕が遺るものである。口縁部にススが付着しているため、燈明皿として用いられた可能性が考えられよう。第66図2及び3は、内耳土鍋である。口縁部内面直下に付けられた耳は、その位置関係から三つの復原可能であるので、いわゆる典型的な常陸型の土鍋と考えられる。2には口縁部外面直下に段を形成し、かなりの深身でうすづくりである。口唇部内面の突出も明瞭だ。他方3は、口縁部外面直下の段は不明瞭で、胴部がハの字状に開いて立ち上がるため、やや浅めである。器壁もやや肉厚で、口唇部内面の突出も明瞭にみられない。これらの所見から、3は2に比べると型式学的にやや後出するものと判断される。いずれにせよ大局的にみれば、1～3はすべて同時期の所産とみても差し支えない。

さて上記の資料以外は小破片のため図示し得なかったため、以下にその内訳を示すことで補うこととする。土師器8点65gのうち、常陸型甕が1点15g、在地産の坏6点40gで、残りは器種不明の細片であった。須恵器8点172gはいずれも木葉下産であった。坏類は2点31gで、このうちにかえりをもつ蓋がみられた。壺甕類は5点135g、残りは器種不明の細片であった。古代瓦の細片3点378gの出土もみられた。中世土器に該当するもので

近隣地域で生産されたものと考えられるが、より緻密な胎土がつくられたものとやや粗い胎土でつくられたものと両者が混在することから、器種によって原材料を選択的に扱っていたとも考えられよう。

土師器小形甕(鉢)では、頸部を明確にもつもの(第64図48・50～52・58・59)と頸部を明確にもたないもの(第64図49・53)がある。さらに前者には、胴部がより直線的になるもの(50・59)と胴部がより丸みを帯びるもの(48・51・52・58)がある。これらは53を除いてはいずれも胴部外面にケズリ調整、内面に工具ナデ調整が施されている。53及び54～56の胴部外面にはタテハケが施されており、在来の技術によるものではないことが明らかである。大形製品の外面においてタテハケ調整が一般的な東北との関係がうかがわれるのである。なお胎土の特徴から、小形甕(鉢)はすべて在地産と考えられよう。比較的大形の甕としては、第65図62～64の資料がある。いずれも球胴形の外面ケズリ調整甕で在地産と考えられる。また口縁部を上方へつまみ上げ、胴部外面に縦位の粗いタテミガキ調整をもつ常陸型甕は、実測し得なかったものの小破片が一定量出土しているのが注目される。

002号遺構 本遺構から出土した遺物は、総計33点675gである。いずれも小破片で図示し得なかったが、以下にその内訳を示すことで補うことと

は内耳土鍋3点73g, 底部に糸切り痕を遺すかわらけ5点34gがある。このほか縄文土器3点103g, 礫10点7,721gの出土をみた。

【05N-T6】

遺構外 トレンチ6で出土した遺物は、すべて遺構外である。その内訳は、土師器10点65g, 須恵器7点72g, 古代瓦1点38g, 鉄釘1点3g, 礫5点91gである。なお土師器のうち1点はトレンチ8遺構外出土の土師器壺と接合し図化した。

【05N-T7】

001号遺構 第67図1は内面黒色処理を施した土師器高台付坏である。体部はハの字に開き、そのまま口縁部に至る形状のものである。胎土の特徴から新治産(筑波山麓産)とみられる。第67図2は須恵器の高台片であるが、その断面形状から、2は坏に接続するものであろう。第67図3は破片資料ながらいわゆるフラスコ形瓶とよばれるものと推察され、胎土の特徴から常陸産ではなく、東海産とみられる。全体的にやや時期の下る資料が多い。本遺構の年代は9世紀中葉ごろ以降であろうか。

002号遺構 第67図4は須恵器の高台片であるが、その断面形状から、4は壺瓶類に接続するものであろう。第67図5は須恵器頸部である。木葉下産で、外面胴部には斜位の平行叩きがみられ、頸部内面には横位の手持ちヘラケズリにより器面を平滑に整えている様子がかがえる。

003号遺構 第67図6,7は著しく矮小化した土師器坏である。伝統的なヘラケズリを底部外面に施すことによって、丸底の器形をつくりだしている。第67図8,9,10は口径に比して器高が浅く、坏というよりは皿というべき器形をなしている。とくに10は畿内産土師器を強く意識したらしく、外面に丁寧なミガキを施し、内面に放射状暗文というべきミガキを施している。その口縁部はやや玉縁状になっている様子も注目されよう。第67図11はやや深みのある坏で内面に放射状のミガキを施す。第67図14は須恵器高台付坏だが、高台の断面形状がシャープで細いことから、古く位置づけられる資料である。第67図15は須恵器脚部だが、その形状からは、トレンチ5の001号遺構で出土した短脚付盤が推定される。第67図12は在地産で頸部直下に段をもつ小形甕(鉢)で、第67図13は常陸型甕の破片である。以上の資料から、003号遺構の年代はトレンチ5の001号遺構の年代に極めて近く位置づけられよう。

004号遺構 第68図1は土師器坏である。須恵器坏身模倣形態の典型例で、内外面漆塗黒色が施されている。やや深身で底部外面のケズリが太く長いストロークで施されているのをみると、やや古く位置づけられようが、それが7世紀前半代へ下るのかを判断するには躊躇する。第68図2は、須恵器高台付盤である。しっかりとハの字に踏ん張る高台の形状とその法量の大きさから考えて8世紀中葉の所産と考えられよう。

SB003 本遺構から出土した遺物は39点を数えるが、いずれも小破片で図示し得なかった。以下にその内容を示すことで補いたい。土師器甕では在地産と思われるものが5点、常陸型甕に該当するものが3点みられた。また小形甕(鉢)2点、坏8点のほか甕の細片と思しきものが出土している。出土した須恵器4点はいずれも木葉下産だが、これらのうちP6から出土した高台付坏は高台の形状からみて8世紀後半代におさまるものとみられる。その他古代瓦4点、縄文2点、石器剥片1点、中世内耳土鍋3点、礫4点の出土がみられた。

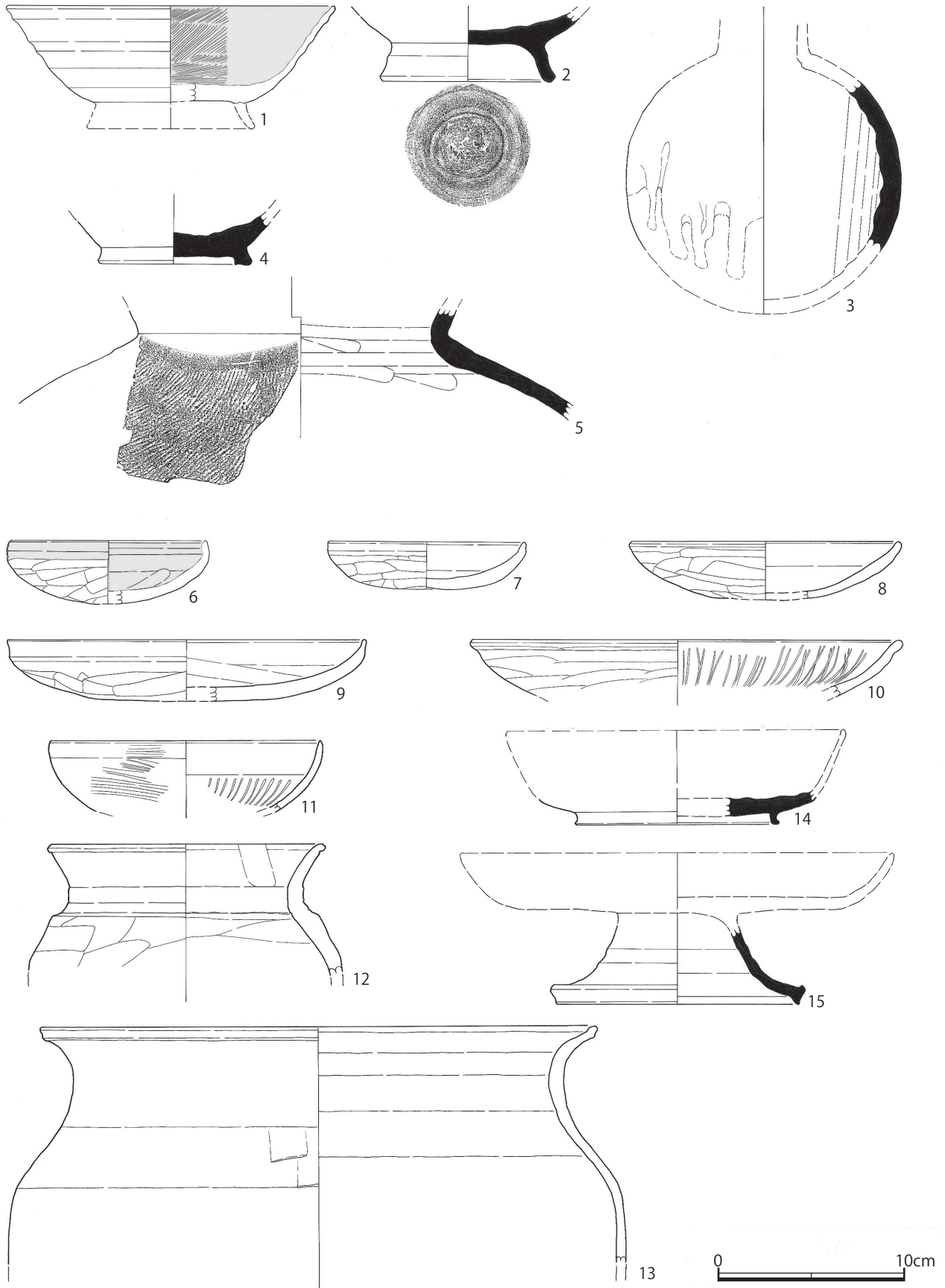
【05N-T8】

遺構外 第68図3は、土師器壺である。坏としてもよからうが、腰部においてやや外方へ大きく湾曲する器形は壺というにふさわしい。外面は手持ちケズリによって器面調整され、内面には細いミガキが加わる。ただし内面のミガキは、アトランダムに施されたのちに、放射状になされるという点で珍しい手法である。ややその手法異質ながら、ミガキ調整を積極的に導入する点から7世紀後葉のいずれかに位置づけて差し支えない。

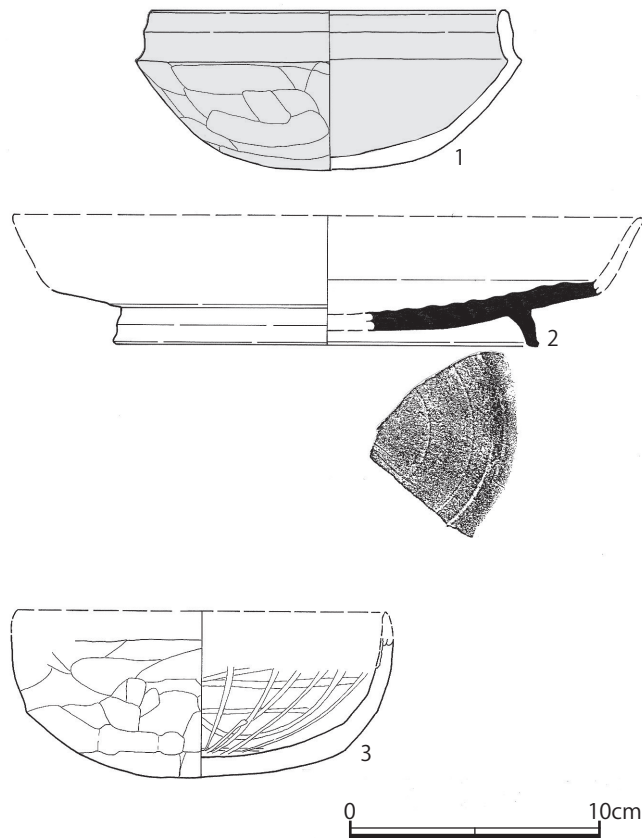
【その他】

金属製品・鉄残滓 第69図にトレンチ1の001号遺構, トレンチ4の005号遺構, トレンチ5の001号遺構, トレンチ7の003号遺構から出土した金属製品及び鉄滓を図示した。製品はいずれも鉄製である。第69図1は釘, 第69図2は吊手金具, 第69図3は刀子, 第69図4・11は碗形滓, 第69図5・6は鏃, 7・8は鏃, 9は鋌, 10は鏃とみられる。
(渥美)

縄文土器・石器 第70図1-1及び1-2, 2・3は縄文土器である。1-1及び1-2は同一個体であり, 2・3も含



第 67 图 台渡里廃寺跡 (第 26 次) T7 出土土器
 1 ~ 3 : 001 号遺構 4・5 : 002 号遺構 6 ~ 15 : 003 号遺構



第 68 図 台渡里廃寺跡（第 26 次）T7・T8 出土土器
1・2：T7-004 号遺構 3：T8 遺構外

観音堂山地区の初期寺院の主要伽藍の周辺及び整地層の下層からは、掘立柱建物跡の柱掘方が検出されており、今後、その性格も含めて、造営年代については慎重に検討していく必要がある。また、鉄滓が出土している竪穴住居跡もあることから、土器の年代から考えると観音堂山地区の初期寺院の造営集落の一部であった可能性も考えられる。ただし、トレンチ 7 の西端で検出された竪穴住居跡については、内面黒色処理の施された土師器が出土していることから、9 世紀後半の年代が推定される。この竪穴住居跡は、04N-T9 で検出されている平安時代の竪穴住居跡と近い年代である。

掘立柱建物跡はいずれも側柱式で柱掘りかたの重複が見られず、建て替えを行っていない。主軸方位は SB007 をのぞき、いずれも北東方向に 10° 傾いており、観音堂山地区や南方地区の主要伽藍と同じ傾きである。柱掘りかたには土器片や瓦片が含まれている箇所もあったが、段下げを行った結果、柱抜き取り穴やトレンチャー痕に含まれていることが明らかとなった。

柱穴の大半は抜き取られた後に柱痕跡の部分が灰白色粘土で埋められており、柱間の推定が容易であった。こうした共通する特徴を持つことから、SB007 を除く掘立柱建物跡はいずれも同時期に廃絶した可能性が考えられよう。SB007 については主軸方位がほぼ座標北を向いており、柱掘りかたの規模から考えると中世以降のものである可能性が考えられる。03N-T4 で検出された掘立柱建物跡（SB001 と SB002）についても規模が類似していることから同時期の可能性がある。

掘立柱建物跡の時期については、05N-T7 で 7 世紀後半の土師器が出土した竪穴住居跡（004 号遺構）の覆土を切って構築されている状況が確認されており、さらに 05N-T5 と 05N-T7 では南方地区の東側寺院地区画溝と掘立柱建物跡の柱列が重複して検出されており、柱穴が溝によって切られていたことから、現状では 9 世紀第Ⅲ四半期以前という年代を与えることができる。ただし、竪穴住居跡と掘立柱建物跡の大半は重複せずに分布域を違えているようにも見える。従って、掘立柱建物跡の構築時期については 7 世紀後半の可能性も考慮する必要がある。

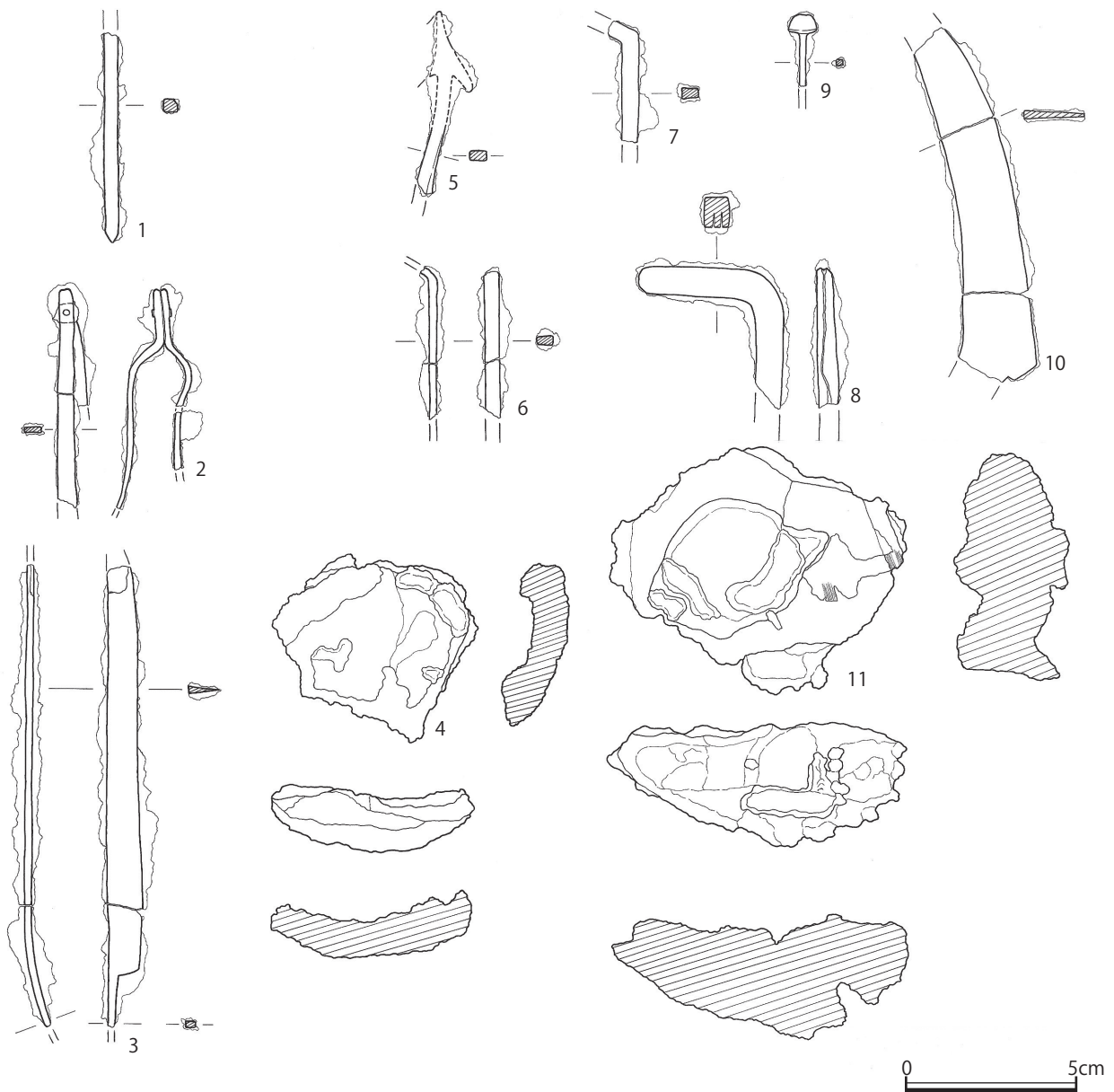
めていずれも晩期とみられる。第 70 図 4 はチャート製の剥片である。

瓦 第 70 図 5～8 は瓦である。5 は格子叩きを持つ丸瓦で、6・7 は格子叩きを持つ平瓦である。8 は凸面にヘラ削りが施された平瓦である。

（色川）

（7）調査の成果と課題

竪穴住居跡は、開発対象地の北西側に集中しており、いずれも 7 世紀後半から 8 世紀初頭に位置付けられる時期の遺物が覆土に堆積していた。出土した須恵器の坏蓋には水戸市山田窯跡群産とみられるものがあり、7 世紀第Ⅳ四半期（飛鳥Ⅲ期新相）のものとみられる。ただし、05N-T5 で検出された竪穴住居跡（001 号遺構）から出土した須恵器の坏蓋は、山田窯跡群産のものよりも型式学的に古い様相をもつ「かえり蓋」が数点出土しており、構築時期は 7 世紀第Ⅲ四半期（飛鳥Ⅱ期）まで遡る可能性がある。さらにこの竪穴住居跡の覆土中からは、観音堂山地区の初期寺院の金堂（SB002）の基壇化粧に使用されているものに酷似する凝灰岩製の砥石も出土しており、観音堂山地区の初期寺院の金堂の基壇化粧に使用された切石が転用されたものであるとすれば、その造営年代は前期評段階（7 世紀第Ⅲ四半期）まで遡る可能性が出てくる。



第 69 図 台渡里廃寺跡（第 26 次）出土金属製品・鉄滓

1・2：T1-001 号遺構 3・4：T4-005 号遺構 5～10：T5-001 号遺構 11：T7-003 号遺構

明確な区画施設も持たず、重複も殆どみられない 8m クラスの大形竪穴住居跡と大形の側柱式掘立柱建物跡群の性格については現時点では推定の域を出ないが、建て替えが見られないことから、7 世紀後半に創建され、9 世紀半ばまで存続したと考えられる観音堂山地区の初期寺院の附属施設であった可能性は低いと思われる。

鉄生産に関連する鉄滓などが竪穴住居跡から出土していること、建て替えが全く見られないことから、観音堂山地区の初期寺院の造営集落の一部もしくは、その壇越であった評督の居宅などの官衙施設の一部である可能性が想定される。
(川口・新垣)

(8) 埋蔵文化財の取り扱い

国指定史跡に係る重要遺構も確認され、本来は現状保存すべきところであるが、地権者及び開発事業者と協議を



第70図 台渡里廃寺跡（第26次）遺構外出土縄文土器・石器・瓦

重ねた結果、計画の中止は難しいとの結論に達した。ただし、遺構の保護・保存については理解が得られたため、現況地盤に盛土を行い、30cm以上の保護層を確保した上で、申請建物については浅いベタ基礎工法に変更することとなった。また、浄化槽についても、遺構が確認されなかった空間に埋設することになったため、工事立会が相当であるとした。
 (川口・新垣)



写真 13 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T1 SB011 検出状況(北から)



写真 14 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T1 001 号遺構断面(南東から)

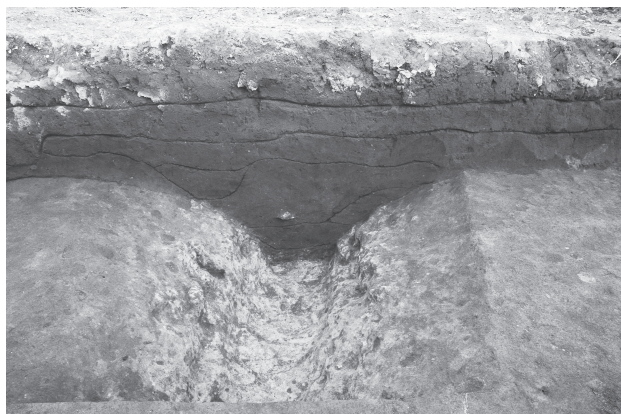


写真 15 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T4 002 号遺構断面(南から)



写真 16 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T4 004 号遺構遺物検出状況(西から)



写真 17 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T4 005 号遺構遺物検出状況(南東から)



写真 18 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T5 001 号遺構遺物検出状況(西から)



写真 19 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T5 SB005・SB010・002 号遺構検出状況(東から)



写真 20 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 001 号遺構遺物検出状況(南東から)



写真 21 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 SB014・002 号遺構検出状況(南から)



写真 22 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 003 号遺構遺物検出状況(東から)



写真 23 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 004 号遺構遺物検出状況(南西から)

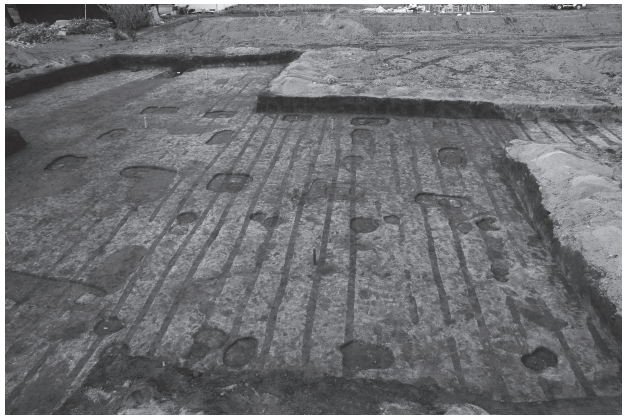


写真 24 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 SB003・SB007 検出状況(南から)



写真 25 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 SB003・SB006・SB007 検出状況(南から)



写真 26 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 SB003-P6 断面(東から)



写真 27 台渡里廃寺跡(第 26 次)05N-T7 SB001・SB002・004 号遺構検出状況(東から)



写真 28 台渡里廃寺跡(第 26 次)文化庁記念物課文化財調査官視察風景

第3表 土器・陶磁器・埴輪・瓦観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形		法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
				細別							(外面・内面)		
第4図	1	笠原神社古墳 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	隆起線文, 刻み(棒状工具), 角押文(半截竹管状工具), 波状口縁	—	金多, 砂粒(白多)	良好	にぶい褐・灰黄褐	縄文時代中期前半「阿玉台1b式」		
	2			縄文土器	—	隆起線文, 角押文(半截竹管状工具?)	—	金, 砂粒(白多)	良好	黒褐・褐	縄文時代中期前半「阿玉台2式」		
	3			縄文土器	—	波状口縁	—	金多, 砂粒(白多)	良好	灰褐	縄文時代中期前半「阿玉台式」		
	4			縄文土器	—		—	砂粒(白多・透多)	良好	灰黄褐	縄文時代中期前半「阿玉台式」		
	5			縄文土器	—	押引文(筥状工具?)	—	金多, 砂粒(白)	良好	褐・黒褐	縄文時代中期前半「阿玉台式」		
	6			縄文土器	—	口唇部刻み, 刺突文, 沈線文	—	砂粒(白・黒・透)	良好	黒褐・にぶい赤褐	時期不明		
第7図	1	釜神町遺跡 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	縄文(LR), 沈線文	—	砂粒(白・黒・透多)	良好	にぶい褐	縄文時代後期初頭「称名寺式」		
	2			縄文土器	—	縄文(LR), 沈線文	—	砂粒(白・黒)	良好	灰黄褐・橙	縄文時代後期前葉「堀之内式」		
	3			磁器・碗	口径 7.9 底径 3.1 器高 4.8	轆轤成形/染付/畳付無釉, 内面口縁部「雷文」, 見込み二重丸に『福』, 外面口縁部「四方禪文」に蓮弁文, 二重丸窓に『福』『寿』, 高台脇二重圏線・蓮弁文, 高台部三重圏線, 底裏銘あり	1/2以上					肥前	
第10図	1	釜久保遺跡 (第1地点)	トレンチ2	土師器・手捏土器	底径 (3.6) 器高 [3.0]		底径 100%	砂粒(白・黒・透)	良	にぶい黄橙～黒・黒			
第13図	1	経塚遺跡 (第1地点)	トレンチ1	陶器・皿 志野織部皿A	口径 (12.2) 底径 (8.0) 器高 [1.9]	轆轤成形, 浅い削出高台/見込一重圏線, 鉄絵草花文/全面に長石釉	1/2以下					17世紀初頭～前半	
	2			陶器・皿 志野菊皿	口径 (12.0) 底径 (7.0) 器高 [2.4]	轆轤成形後, 口縁部へラ削ぎ, 内面は型打, 削出高台/全面に貫入の多い長石釉, 底裏に目痕	1/2以下					17世紀初頭	
	3			陶器	底径 (4.3) 器高 [1.2]	轆轤成形, 削出高台/黒斑が散る茶色の鉄釉, 底裏は露胎	1/2以下					17世紀前半～後半	
	4			土器・かわらけ・中・土師質	口径 (11.8) 底径 5.3 器高 3.1	轆轤成形, 糸切底(右)/見込み指ナデ調整	1/2以下	金多	良好	7.5YR6/6 橙	16世紀以降		
	5			土器・かわらけ・小・土師質	口径 (6.6) 底径 (3.7) 器高 2.2	轆轤成形, 糸切底(右)	1/2以上	金多, 砂粒(白)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙	16世紀以降		
	6			土器・かわらけ・中・土師質	底径 (5.1) 器高 [1.4]	轆轤成形, 糸切底(右)	1/2以下	金, 砂粒(白多・透多)	良好	7.5YR7/6 橙	17世紀か		
	7			土器・かわらけ・中・土師質	底径 (5.0) 器高 [1.8]	轆轤成形, 糸切底(不明)	1/2以下	金, 砂粒(白・透)	良好	5YR6/6 橙	16世紀以降		
	8			土器・内耳土鍋	—	紐積み成形/内耳貼付 残存1/外面炭化物付着	—	骨針, 砂粒(透多)	良好	10YR2/1 黒・10YR4/3 にぶい黄褐	16世紀以降		
	9			瓦質土器・播鉢	—	条線による櫛目3本単位	—	骨針多, 砂粒(黒多・透多)	良好	5Y4/1 灰			
第16図	1	軍民坂遺跡 (第1地点)	トレンチ	縄文土器	—	縄文(RL), 隆起線文, 沈線文	—	砂粒(白多・黒多・透多)	良	にぶい黄褐～黒褐・黒褐	縄文時代中期後半「加曾利E2式」		
	2		トレンチ	縄文土器	—		—	砂粒(白・黒多・透多)	良好	褐灰・黒褐	縄文時代中期後半「加曾利E式」		
	3		トレンチ	縄文土器	—	縄文(LR), 沈線文	—	砂粒(白多・黒・透多)	良好	灰黄褐・灰褐	縄文時代中期後半「加曾利E式」		

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形		法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
				細別							(外面・内面)		
第16図	4	軍民坂遺跡 (第1地点)	トレンチ	縄文土器	—	縄文 (RL)	—	金多, 砂粒 (白多)	良好	黒褐		縄文時代中期後半「加曾利E式」	
	5			縄文土器	—	刺突文 (棒状工具), 沈線文	—	砂粒 (白・黒多・透)	良	にぶい黄橙・にぶい黄		縄文時代中期後半「加曾利E式」	
	6			縄文土器	—	縄文, 沈線文	—	砂粒 (白多・黒・透多)	良好	にぶい褐		縄文時代後期前葉「堀之内式」	
第19図	1	下荒匂遺跡 (第1地点)	トレンチ	縄文土器	—	隆起線文	—	金多, 砂粒 (白多)	良好	黒褐		縄文時代中期後半「加曾利E式」	
	2			縄文土器	—	沈線文	—	砂粒 (白・黒多・透)	良	にぶい黄橙・にぶい黄		縄文時代中期後半「加曾利E式」	
	3			縄文土器	—	沈線文	—	砂粒 (白多・黒・透多)	良好	にぶい褐		縄文時代中期後半「加曾利E式」	
第22図	1	高原古墳群 (第1地点)	トレンチ	弥生土器	—	付加条第1種LR+2R	—	砂粒 (白・黒・透)	良好	にぶい黄橙～褐灰・にぶい黄褐		弥生時代後期	
	2			須恵器・高台付坏	底径 (7.2) 器高 [1.8]	底部回転ヘラケズリ→高台貼付後ナデ	底径 15%	長石・石英・チャート多量, 骨針少量	硬質 堅緻	10Y4/1 褐灰			
	3			須恵器・蓋	口径 (13.4) 器高 [2.8]	折り返し端部, 笠状に器高が高い, 内面に重ね焼き痕跡あり	口径 17%	長石・チャート細粒中量, 黒色粒子少量	硬質 堅緻	5Y5/1 灰			
	4			軒平瓦	全長 (4.9) 重量 70 g	頸部を欠失, 型挽きか1本挽きか不明, 瓦当面はケズリ後重弧挽き, 凹面調整布目	—	長石・石英・角閃石?少量	やや軟質	10Y6/4 にぶい黄橙			
第25図	1	竹ノ内遺跡 (第2地点)	トレンチ1	磁器・碗 国民食器	口径 15.2 底径 6.0 器高 7.1	轆轤成形/色絵 (緑) / 畳付無軸, 外面口縁部二重圏線	1/2 以下				瀬戸・美濃, 1930代～1945年		
第33図	1	平塚遺跡 (第1地点)	トレンチ	縄文土器	口径 (22.4) 器高 [4.6]		口径 10%	骨針, 砂粒 (白多・黒・透多)	良好	にぶい黄橙～黒褐・にぶい褐		縄文時代後期前葉「堀之内式」	
	2			縄文土器	—	縄文 (LR), 沈線文	—	砂粒 (白多・黒・透多)	良好	にぶい赤褐・にぶい褐		縄文時代後期前葉「堀之内式」	
	3			縄文土器	—	縄文 (RL), 沈線文	—	砂粒 (黒・透)	良好	橙・にぶい黄橙		縄文時代後期前葉「堀之内式」	
第36図	1	堀遺跡 (第4地点)	トレンチ	縄文土器	—	縄文 (LR)	—	砂粒 (白・透)	良好	橙・明赤褐		縄文時代後期前葉「堀之内式」	
	2			須恵器・無台坏	口径 (12.1) 底径 (7.0) 器高 3.4	やや器高が低く, 体部がハの字に広がる。底部回転ヘラ切り→ヘラナデ。二次底部面なし。	口径 13% 底径 12%	長石・石英・チャート・骨針	やや硬質	2.5Y4/1 黄灰～7.5YR6/3 にぶい褐			
	3			須恵器・無台坏	底径 (7.8) 器高 [2.9]	底部回転ヘラ切り→ヘラナデ。ヘラ記号を残す。二次底部面なし。	底径 38%	長石・石英・チャート細粒・骨針	やや硬質	2.5Y5/2 暗灰黄			
	4			須恵器・高台坏	底径 (8.5) 器高 [2.5]	底部回転ヘラケズリ。		長石・石英・チャート・骨針	硬質 堅緻	2.5Y6/2 灰黄			
	5			須恵器・高台坏	器高 [1.5]	底部回転ヘラケズリ。高台貼付 (剥離)。		長石・石英・チャート・骨針	やや軟質	2.5Y6/2 灰黄			
	6			須恵器・盤カ	底径 (12.2) 器高 [2.4]	底部回転ケズリ後, 高台貼付, ナデ調整。径がやや大きいので盤の可能性が高い。	底径 20%	長石・石英・チャート・骨針	硬質 堅緻	N51 灰		木葉下産	
	7			須恵器・高盤	器高 [5.7]	四方透し?内面に不明瞭なシボリ痕。		長石・石英・チャート・骨針	硬質 堅緻	5Y5/1 灰			
第39図	1	西原古墳群 (第6地点)	トレンチ4	埴輪・円筒埴輪	—	外面はタテハケ, 磨耗著しい。内面はヨコハケ。	—	長石・石英・チャート・角閃石細粒多量, スコリア少量	普通	10YR6/4 にぶい黄橙			
	2			トレンチ3	埴輪・円筒埴輪	—	外面はタテハケ。内面は斜縦位ユビナデ。	—	長石・石英・チャート・角閃石細粒多量, スコリア少量	普通	5YR5/6 明赤褐		

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第39図	3	西原古墳群 (第6地点)	トレンチ4	埴輪・円筒埴輪	—	外面はタテハケ。内面はナデ、磨耗著しい。	—	長石・石英・チャート・角閃石細粒多量、スコリア少量	普通	7.5YR6/6 橙		
	4		トレンチ3	埴輪・円筒埴輪	—	外面はタテハケ。内面はヨコハケ。	—	長石・石英・チャート・角閃石細粒多量、スコリア少量	良好	5YR5/4 にぶい赤褐		
	5		トレンチ1	埴輪・円筒埴輪	—	外面は突帯貼付→ナデツケ。内面はヨコナデ。	—	長石・石英・チャート・角閃石細粒多量、スコリア少量	良好	5YR5/4 にぶい赤褐		
	6		トレンチ3	埴輪・円筒埴輪	—	外面はタテハケ→突帯貼付→ナデツケ。内面はヨコナデ。	—	長石・石英・チャート・角閃石細粒多量、スコリア少量	良好	5YR5/4 にぶい赤褐		
	7		トレンチ3	埴輪・円筒埴輪、朝顔形カ	—	外面はタテハケ後、上部横位ヨコケズリ。内面はナデ。	—	長石・石英・チャート・角閃石細粒多量、スコリア少量	良好	5YR5/6 明赤褐		
第42図	1	水戸城跡 (第2地点)	トレンチ1	棟飾瓦	全長 (17.3) 厚さ 1.9 重量 1069 g	板作り成形、文様部貼付／青海波文、文様内に条線による櫛目6本単位を三角パターン	—	白雲母	硬質	7.5Y4/1 灰～N2/黒		19世紀以降か
	2		法面表採	棟飾瓦	全長 23.9 厚さ 1.7 重量 1249 g	板作り成形、文様部貼付／青海波文、文様内に条線による櫛目5～6本単位／釘痕残存2ヶ所	—	骨針、白雲母多、砂粒(透多)	硬質	N2/黒・5Y3/1 オリーブ黒～N2/黒		19世紀以降か
	3			丸瓦	全長 (16.4) 厚さ 1.9 重量 915 g	板作り・型巻成形／外面縦ケズリ、内面布目痕	—	砂粒(白)	硬質	N3/暗灰・5Y5/2 灰オリーブ～N3/暗灰		
	4			軒丸瓦	重量 195 g	右巻き三つ巴文を中心に周縁に珠文を配置	—	砂粒(白)	硬質	N3/暗灰		
	5			軒丸瓦	重量 62 g	右巻き三つ巴文	—	砂粒(白多・黒多・透多)	やや硬質	10YR7/4 にぶい黄橙		
	6			軒丸瓦	重量 85 g	右巻き三つ巴文	—	骨針	硬質	N3/暗灰・5Y4/2 灰オリーブ		
	7			棟込瓦	全長 15.6 外区径 (8.6) 内区径 (6.6) 重量 284 g	左巻き三つ巴文	—	骨針、白雲母	硬質	5Y5/2 灰オリーブ～5Y/オリーブ黒		
	8			軒棧瓦もしくは軒平瓦	全長 (9.4) 厚さ 1.8 重量 476 g	板作り・型当て・型押成形／均整唐草文	—	白雲母、砂粒(透)	硬質	N2/黒		
	9			引掛棧瓦	全長 (8.9) 厚さ 1.7 重量 322 g	板作り成形／引掛棧	—	白雲母	硬質	7.5Y2/1 黒		近代
第47図	1	米沢町遺跡 (第1地点)	トレンチ4	縄文土器	—		—	砂粒(黒・透)	良好	にぶい黄橙～黒褐・にぶい褐		縄文時代晩期前葉「安行3a式」
	2		工事立会	縄文土器	—		—	砂粒(黒・透)	良好	にぶい黄橙～黒褐・にぶい褐		縄文時代後期後葉「安行2式」～晩期前葉「安行3a式」
	3		工事立会	須恵器・甗	—		—	長石・石英・チャート・骨針	硬質 堅緻	N51 灰		木葉下産
	4		トレンチ3	土師質土器・内耳鍋	—	外面に煤付着。	—	骨針、砂粒(白多・黒多)	良好			

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形		法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
				細別							(外面・内面)		
第51図	1	堀遺跡 (第3地点)	確002 No3	須恵器・無台坏	口径 11.8 器高 4.4 底径 6.5	回転轆轤整形。体部下 端及び底部は無調整。 底部回転ヘラ切り。ヘ ラ記号。	3/4	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	普通	5Y 6/2 灰オリー ブ	木葉下産		
	2		確002 No2	須恵器・有台皿	口径 [23.0] 器高 4.3	ハの字状に外傾。大振 り。内面に沈線をもつ 有台盤からの変化か。 高台端部はやや外反し ておさまる。回転轆轤 整形。内外面に強いロ クロ目を遺す。底部は 回転ケズリ。ヘラ記号 を遺す。高台貼付後接 合部ナデ。	100%	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	硬質 堅緻	7.5Y 6/1 灰	木葉下産		
	3		確002 No1 ほか	土師器・有台盤	口径 [26.7] 器高 5.6	高台は長くハの字状に 踏ん張る。体部の屈曲 がやや緩く、口縁部は 外傾して比較的丸くお さまる。回転轆轤整形。 底部回転ヘラケズリ。 高台貼付後接合部ナ デ。口縁部外面から内 面全体にかけて細かい ミガキで器面を丁寧に 仕上げた後黒色処理。	1/5	長石・石英細 粒多・スコリ ア・黒雲母	普通 やや 軟質	10YR 7/4 にぶい 黄橙	在地産		
	4		確005 No5 ほか	須恵器・有台坏	口径 [14.6] 器高 4.2	体部から緩やかにハの 字にひらいて外傾して 伸び、口縁部でやや肥 厚して丸くおさまる。 高台付け根は沈線状に 屈曲し、端部が丸く 突出しておさまる。回 転轆轤整形。内外面の ロクロ目は平滑な器面 調整によりナデ消され る。底部回転ケズリ後 高台貼付、接合部回転 ナデ。腰部直下は直線 的に面取りされる。	2/3	長石細粒・砂 粒	良好 硬質 堅緻	2.5YR 7/1 灰白	湖西産		
	5		確005 No1 ほか	須恵器・無台坏	口径 [7.6] 器高 (2.3)	二次底部面をつくら ず、屈曲する。回転轆 轤整形。底部外面は 回転ヘラ切り後ヘラナ デ。体部内外面ナデ。	—	長石・石英・ チャート・骨 針	良好 硬質 堅緻	7.5Y 5/1 灰	木葉下産		
	6		確005 No.4 ほか	土師器・甕	口径 17.5 器高 (9.1)	胎土はやや粉っぽい。 頸部にあまりしまりが なく、外反して口縁部 に至り、丸くおさまる。 口縁部～頸部ナデ。胸 部外面ケズリ後一部細 いタテミガキ。	—	長石・石英・ チャート・白 雲母細粒	普通 やや 軟質	7.5YR 6/6 橙	新治産カ		
第52図	1		確004・007	須恵器・無台坏	口径 [14.3] 器高 5.0 底径 6.4	体部が広くハの字状に ひらいて伸びる。重焼 きのためか口縁部のみ やや赤味がかり、還元 が行き届かない。回転 轆轤整形。回転ヘラキ リ後ナゾリ。ヘラ記号 あり。粘土柱痕遺す。	1/2	長石・石英・ チャート・骨 針	不良 軟質	2.5Y 5/2 暗灰黄	木葉下産		
	2		確007 No.20.17 カ マド	須恵器・無台坏	口径 [14.6] 器高 (4.2)	ハの字にひらく器形。 回転轆轤整形。内外面 のロクロ目をヘラナデ で平滑に整える。	—	長石・石英・ チャート・骨 針	不良 やや 軟質	10YR 4/2 灰黄褐			

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考	
				細別						(外面・内面)		
第52図	3	堀遺跡 (第3地点)	確004 カマド	土師器・無台坏	口径 [13.2] 器高 4.4 底径 6.5	ハの字状に大きくひらく器形。口縁部は肥厚してやや角張っておさまる。回転轆轤整形。回転ヘラ切り後ナゾリ痕を遺す。内面はナデのみでミガキが施されないが、焼成具合から土師器と判断。	—	長石・石英・チャート細粒・骨針・黒雲母	普通 やや軟質	5YR 6/6 橙	在地産	
	4		確007 カマド No.12	土師器・無台坏	口径 [13.2] 器高 4.4 底径 6.5	体部は下端が肉厚で、中位でやや薄く、口縁部へ向かって肥厚したまま丸くおさまり、ハの字状にひらく、底部は小さい。回転轆轤整形。口縁部直下に粘土紐輪積痕が観察できる。外面ナデ。内面ナデ後ミガキを施し内面黒色処理。底部は回転ヘラ切り無調整。二次的に被熱を受けているため内面の黒色処理が剥げている。	—	長石・石英・チャート細粒・白雲母・スコリア	普通 やや軟質	5YR 6/6 橙	在地産	
	5		確004 No.6	土師器・小形甕	底径 [8.8] 器高 (8.9)	やや下膨れの器形になる。底部は平底気味。粘土紐輪積成形。胴部外面下半にはヨコケズリ。内面はナデ。	—	長石・石英・チャート細粒・白雲母・スコリア	良好 やや硬質	10YR 4/2 灰黄褐	在地産	
	6		確004・007 ほか	土師器・甕	口径 [19.6] 器高 (20.0)	器壁が薄く精緻なつくり。口縁部は回転ナデ。口唇部が屈曲して上方へ突出。胴部外面の上半は強いオサエ痕が遺り、下半はタテケズリ後ヨコケズリ。内面は上半ヨコナデ、下半ヨコナデ→タテナデ。	1/3	砂粒(白・黒・透), チャート・スコリア・黒雲母	良好 やや硬質	7.5YR 6/6 橙	在地系「常陸型」 模倣土師器甕	
	7		確007 No.1 ほか	須恵器・短頸壺	口径 [13.2] 器高 (9.9)	やや撫肩の器形。口唇部は上面に沈線をもち、口縁部ごと内傾しておさまる。肩部外面には降灰がみられる。回転轆轤整形。内外面ナデ。	下半部欠	砂粒(白・黒・透), チャート, 骨針	良好 硬質 堅緻	2.5YR 5/2 灰赤	木葉下産	
	第53図		1	確007 №4	丸瓦	全長 (24.6) 厚さ (1.0) 重量 699 g	凸面格子叩き→横方向へラケズリ, 凹面布目痕	—	砂粒(白・黒・透), チャート	硬質	7.5YR6/6 橙・ 2.5Y7/2 灰黄	
			2	確007 №15	丸瓦	全長 (11.2) 厚さ (1.4) 重量 414 g	凸面ナデ, 凹面ナデ	—	骨針, 砂粒(白多・黒多)	硬質	7.5YR7/6 橙~ 2.5Y6/1 黄灰・ 7.5YR7/4 にぶい 橙	
3		確004 №12	丸瓦	全長 (12.1) 厚さ (1.8) 重量 183 g	凸面横方向へラケズリ→縦方向へラケズリ, 凹面布目痕	—	砂粒(白・黒・透)	やや硬質	2.5Y7/3 浅黄			
4		確007 №7	平瓦	全長 (9.3) 厚さ (2.0) 重量 331g	凸面縄叩き, 凹面布目痕	—	骨針, 砂粒(白多)	やや硬質	5Y6/2 灰オリーブ	木葉下産		
5		確005 №18	平瓦	全長 (7.7) 厚さ (2.6) 重量 236 g	凸面格子叩き→横方向へラケズリ, 凹面布目痕	—	砂粒(白多・透多), チャート	硬質	2.5Y7/2 灰黄	木葉下産カ		
第54図	6	確004 №1	平瓦	全長 (15.5) 厚さ (1.8) 重量 1104 g	凸面縦方向へラケズリ・ナデ, 凹面横方向へラケズリ・ナデ	—	骨針, 砂粒(白・透)	硬質	7.5YR6/4 にぶい 橙			

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形		法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)		備考
				細別									
第54図	7	堀遺跡 (第3地点)	確007 No.14	平瓦	全長 (16.5) 厚さ (1.6) 重量 499 g	凸面縦方向ヘラケズリ, 凹面布目痕	—	砂粒 (白多・透多)	硬質	5Y7/1 灰白・10YR7/2 にぶい黄橙			
	8		確007 No.8	平瓦	全長 (28.5) 厚さ (2.0) 重量 632 g	凸面横方向ヘラケズリ, 凹面布目痕	—	砂粒 (白・黒・透), チャート	硬質	7.5Y7/1 灰白	木葉下産カ		
	9		確005 No.11	平瓦	全長 (5.5) 厚さ (2.2) 重量 124 g	凸面格子叩き, 凹面布目痕	—	砂粒 (白), チャート	硬質	2.5Y7/2 灰黄・2.5Y6/3 にぶい黄		山田窯産カ	
	10		確005 No.5	平瓦	全長 (5.8) 厚さ (2.4) 重量 193 g	凸面格子叩き→横方向ケズリ, 一部指紋痕あり, 凹面布目痕	—	砂粒 (白多)	硬質	2.5Y5/2 灰黄			
第55図	11		確007 No.5	平瓦	全長 (32.8) 厚さ (2.0) 重量 1279 g	凸面格子叩き→2次焼成?, 凹面布目痕, 一部切断用目印か	—	砂粒 (白多・透多)	やや軟質	10YR6/4 にぶい黄橙			
第59図	1	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T1-001	須恵器・無台坏蓋	口径 3.4 器高 (2.8)	全体的にややドーム状を呈す。断面セピア色。つまみ上部のナデは工具使用か。端部処理が極めて精緻な偏平つまみである。回転軸調整形。天井部は回転ケズリ後, つまみ貼付接合部を回転ナデ。	1/2	長石・石英・チャート細粒・骨針	良好硬質堅緻	7.5Y4/1 灰		木葉下産	
	2		05N-T1-001	須恵器・有台坏蓋	口径 [15.6] 器高 (1.5)	混和材が少なく, 器壁が薄い。器面は滑らかで光沢感をもつ。全体的に偏平で, 端部は折り返して垂直に尖り気味におさまる。内面は回転ナデ後器面を平滑に整えるようにナデた擦痕がみられる。外面には濃緑色の釉が降下し, 天井部の回転ケズリの痕跡を覆っている。	1/6	長石・砂粒	良好硬質堅緻	2.5Y 6/1 黄灰		猿投産	
	3		05N-T1-001	須恵器・大形蓋?	口径 [26.4] 器高 (4.1)	大形の蓋もしくは盤である。端部はおりかえりしてシャープなつくりである。外面全体に降灰。回転軸調整形。内面ラセンナデ。外面天井部回転ケズリ。重ね焼きのため, 内面のみいわゆるセピア色を呈す。	—	長石・石英・チャート・骨針	良好硬質堅緻	7.5YR 4/2 灰褐		木葉下産	
	4		05N-T1-001	須恵器・低脚坏	口径 [8.0] 器高 (2.8)	器壁が薄く, 脚端部がシャープに突出する精巧なつくり。底部回転ヘラキリ後, 脚部貼付, 接合部回転ナデ。内面は平坦にナデ調整。1994年調査(8次) II区2号溝出土土器に類例あり。	—	長石・石英・チャート細粒	良好やや軟質	7.5Y 3/1 オリーブ黒		木葉下産	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考
				細別						(外面・内面)	
第60図	1	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T4-004	土師器・坏	口径 [12.8] 器高 (2.8)	漆塗黒色。口縁部外傾／無段有稜／丸底形態。体部は薄く、口縁部で肥厚する。口縁部外面から内面全体にかけて回転ナデを施す。体部から底部にかけての外面に小さい単位の手持ちケズリを行い、器面・器壁を平滑に整える。	1/5	長石・石英・スコリア	良好 やや軟質	10YR 6/4 にぶい黄橙	在地産
	2		005N-T4-004-8	土師器・坏	口径 [12.6] 器高 (3.4)	橙色系。口縁部外傾／無段有稜／丸底形態。口縁部・底部内面はナデ後細かいミガキ。底部外面は手持ちケズリ後、ヘラナデで平滑に整える。やや光沢感をもつ。	1/4	長石・石英・チャート細粒	良好 やや軟質	5YR 6/8 橙	在地産
	3		05N-T4-004-8	土師器・坏	口径 [13.9] 器高 3.8	赤色系。口縁部外傾／無段有稜／丸底形態。口唇部内面に沈線を有し、やや外傾して膨らむ。口縁部および内面全体ナデ。底部外面細い手持ちケズリ。	1/6	長石・石英細粒・スコリア・白雲母	良好 やや軟質	5Y 5/8 明赤褐	在地産
	4		05N-T4-2-004	須恵器・無台坏	口径 [14.8] 器高 4.3	外面に降灰し、器形はやや扁平。口唇部はやや外反し、平坦面をもつ。体部に比して底部はやや肉厚。回転轆轤整形。底部回転ケズリ。体部のナデは平滑で丁寧。	2/3	長石・石英・チャート細粒・骨針	良好 硬質 堅緻	2.5Y 4/1 黄灰	木葉下産
	5		05N-T4-004-5 ほか	須恵器・有蓋小坏身	口径 [9.4] 器高 3.1	口縁部は外傾しながら立ち上がる。口唇部は面取り。全体的に器壁が薄くシャープ。回転轆轤整形。体部はロクロ目を平滑にナデ整える。底部回転ヘラ切り後手持ちヘラナデ。	1/3	長石・石英・チャート細粒	良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産
	6		05N-T4-004-9	須恵器・短脚盤?	端径 [13.4] 器高 (2.9)	坏・盤類の脚部片と考えられる。刻み目をもつが、遺存部では1条のみ。端部は上下へ突出する。回転轆轤整形。	—	長石・石英・チャート細粒・骨針	良好 硬質 堅緻	2.5Y 6/2 灰黄	木葉下産
	7		05N-T4-004-6	須恵器・有台坏蓋	端径 [14.8] 器高 (2.4)	天井部には濃緑色の自然釉が分厚くかかる。おりかえし端部は真直ぐに垂下する。回転轆轤整形。天井部は回転ケズリか。	—	長石・砂粒・黒色粒子	良好 硬質 堅緻	10YR 6/1 褐灰	湖西産
	8		05N-T4-004-6	須恵器・有台坏カ	口径 [15.4] 器高 (4.1)	口縁部に向かって鋭く外傾して立ち上がる。腰部に強い稜をもち、この付近まで回転ケズリの痕跡が及ぶことから、高台器種と推定。回転轆轤整形。回転ナデは平滑でロクロ目の痕跡はうすい。	—	長石・石英・チャート細粒・骨針	良好 硬質 堅緻	5Y 6/1 灰	木葉下産

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形		法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
				細別							(外面・内面)		
第60図	9	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T4- 004-8	須恵器・甕		口径 [17.2] 器高 (7.3)	口唇部は内外に短く突出してシャープにする。器壁はやや薄い。口縁部から頸部にかけてを回転轆轤整形。胴部は外面格子叩き、内面は当て具痕をナデ消す。頸部接合後は回転ナデ調整。湖西産を模倣したものか。	—	長石・石英・チャート細粒多量。骨針	良好 やや軟質	5Y 7/1 灰白	木葉下産	
第61図	1	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T4- 005-4	須恵器・有蓋小 坏蓋		口径 [10.9] 器高 2.8	つまみはシャープな宝珠状を呈し、天井部には降灰する。端部は丸みを帯び、かえりは短いながらもシャープに突出する。回転轆轤整形。天井部は回転ケズリ後つまり貼付ナデ。	完形	長石・石英・チャート細粒・黒色粒子	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5 5/1 黄灰	木葉下産	
	2		05N-T4- 005-2	須恵器・有台坏 蓋		器高 (2.0)	天井部はやや肉厚だが、全体的にシャープで薄いつくり。つまみは宝珠状だがかなり扁平である。回転轆轤整形。内外面回転ナデ。天井部は回転ケズリ後つまみ貼付ナデ。調整は平滑で丁寧。	1/2	長石粒・砂粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 6/1 灰	湖西産	
	3		05N-T4- 005-4	須恵器・有蓋小 坏身		口径 9.6 器高 3.4	口縁部はやや外反して立ち上がる。腰部はやや肉厚。回転轆轤整形。底部回転ヘラキリ後周囲をヘラナデ調整。底部中心は、ヘラキリ痕跡を遺す。	ほぼ完形	長石・石英・チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産	
	4		05N-T4- 005-6	須恵器・有台坏		口径 [14.8] 器高 5.9	やや厚手で粗雑なつくり。体部は真直ぐに外傾し、口縁部に至る。高台部は端部両側に突出し、ハの字に踏ん張る形状。回転轆轤整形。底部回転ケズリ後高台貼付ナデ。体部・口縁部回転ナデ。見込みを手持ナデで平滑に整える。	ほぼ完形	長石・石英・チャート細粒・黒色粒子	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木葉下産	
	5		05N-T4- 005-7	須恵器・低脚小 坏		口径 10.7 器高 5.0	有蓋小坏 (坏G) に低い脚が付く。脚端部は外方へ突出し、内側に接地面をもつ。回転轆轤整形。回転ナデ調整はロクロ目がうすく平滑。脚部接合前に底部には回転ケズリが施される。	2/3	長石・石英・チャート細粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 4/1 灰	木葉下産	
	6		05N-T4- 005-6	須恵器・有台坏		台径 7.2 器高 (2.2)	器壁が厚く鈍重である。高台端部は丸く突出する。回転轆轤整形。内面はラセンナデ。外面は周囲を回転ケズリ後、高台貼付し接合部を回転ナデ。高台内底部中央には回転ヘラキリの痕跡を遺す。	高台片	長石・石英・チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
										(外面・内面)		
第61図	7	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T4-005-7	須恵器・高脚 埴?	口径 [13.0] 器高 (4.5)	やや厚手で粗雑なつくり。口縁部はやや外反気味。回転轆轤整形。ロクロ目を残さず平滑に回転ナデ。No.14 と同一個体か。	—	長石・石英細粒	焼成普通 やや軟質	2.5Y 7/1 灰白		木葉下産 (山田窯カ)
	8		05N-T4-005-7	須恵器・高脚埴	器高 (8.3) 端径 [10.2]	やや厚手で粗雑なつくり。脚内部にシボリ痕跡を遺す。回転轆轤整形。仮 4501 と同一個体か。	脚部 1/2	長石・石英細粒	焼成普通 やや軟質	2.5Y 7/1 灰白		木葉下産 (山田窯カ)
	9		05N-T4-005-7	土師器・小坏	口径 [10.8] 器高 (3.5)	漆塗黒色。口縁部内傾／有段／丸底形態。器壁は厚いが、精選された胎土をもつ。底部は手持ケズリで口縁部および内面はナデ。	—	長石・石英・黒雲母微粒	焼成良好 やや軟質	10YR 7/4 にぶい 黄橙		
	10		05N-T4-005-7	土師器・小坏	口径 [11.6] 器高 (2.7)	漆塗黒色。口縁部内傾／有段／丸底形態。やや器壁が厚いが、精選された胎土で丁寧につくられる。底部手持ケズリ。口縁部および内面はナデ。	—	長石・石英・黒雲母微粒・スコリア	焼成良好 やや軟質	10YR 7/3 にぶい 黄橙		
	11		05N-T4-005-7	土師器・坏	口径 [13.8] 器高 (3.5)	漆塗黒色。口縁部外傾／無段有稜／丸底形態。器壁が厚いが、精選された胎土をもつ。底部は手持ケズリで内外面はナデ。	—	長石・石英・黒雲母微粒	焼成良好 やや軟質	7.5YR 5/4 にぶい 褐		
	12		05N-T4-005-3	土師器・坏	口径 [13.0] 器高 (2.3)	漆塗黒色。口縁部内傾／有段／丸底形態。器壁が薄く、丁寧でシャープなつくり。精選された胎土をもつ。底部手持ケズリ。口縁部および内面はナデ。	—	長石・石英・黒雲母微粒	焼成良好 やや軟質	7.5YR 7/6 橙		
	13		05N-T4-005-7 ほか	土師器・甕	器高 (11.8)	頸部直下に段を形成する。胴部外面上位をヨコケズリ後、最大径付近を長くタテケズリし、下位を斜方向ヘケズリし、整える。内面は、太い単位の縦位にナデ。口縁部欠。緻密な胎土。	胴部 1/2	長石・石英・スコリア	焼成普通 やや軟質	10YR 6/3 にぶい 黄橙		在地産
第62図	1	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T5-001-4	須恵器・有蓋小 坏蓋	端径 [10.6] 器高 2.7	やや矮小で鈍重なつくり。端部は折り返され、かえりは短く突起する。つまみは扁平だが、宝珠形の痕跡を止める。回転轆轤整形。3段の回転ケズリ後つまみ貼付回転ナデ。	1/2	長石・石英・チャート細粒	焼成良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰		木葉下産
	2		05N-T5-001-26 ほか	須恵器・有蓋小 坏蓋	端径 [11.9] 器高 (2.7)	器高が高く肉厚。かえりは長く鈍重。回転轆轤整形。天井部は2段の回転ケズリ後、つまみ貼付回転ナデ。蓋 No.57 とよく類似する。同工品か。	1/2	長石・石英・チャート細粒・骨針	焼成良好 硬質 堅緻	2.5Y 4/1 黄灰		木葉下産

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考
										(外面・内面)	
第62図	3	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T5-001-10	須恵器・有蓋小 坏蓋	口径 [12.0] 器高 3.6	器壁が薄く丁寧なつくり。つまみは宝珠状を呈する。端部は真直ぐ外傾し、かえりは短い。回転軸整形。天井部は3段の回転ケズリを施す。つまみ貼付後ナデ。	ほぼ完形	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	焼成 不良 やや 軟質	2.5Y 5/2 暗灰黄	木葉下産
	4		05N-T5-001-244	須恵器・有蓋小 坏蓋	端径 11.7 器高 3.8	外面全体に濃緑色の自然釉が付着。偏平な宝珠状のつまみをもち、端部・かえりはシャープで丁寧なつくり。回転軸整形。内面にはラセンナデ、天井部には回転ケズリ。体部中に膨らみをもつ。	ほぼ完形	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産
	5		05N-T5-001-22 ほか	須恵器 有蓋小坏蓋	端径 11.7 器高 3.8	鈍重なつくりである。つまみは宝珠状だが偏平でシャープさに欠ける。折り返しのような端部に太いかえりがつく。回転軸整形。外面の回転ケズリは粗い。内面はラセンナデ。	2/3	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 4/1 黄灰	木葉下産
	6		05N-T5-001-22 ほか	須恵器・有蓋小 坏蓋	端径 11.8 器高 3.7	器高が高く肉厚。つまみはやや偏平だが宝珠形の痕跡を止める。かえりは長く鈍重。回転軸整形。天井部は3段の回転ケズリ後、つまみ貼付回転ナデ。蓋No.64の同工品か。	ほぼ完形	長石・石英・ チャート細粒 多量、骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 4/1 黄灰	木葉下産
	7			須恵器・有蓋小 坏蓋	端径 11.7 器高 3.0	天井部には分厚く降灰し、窯壁の小片が付着。端部・かえりはシャープで、全体的に薄い。宝珠状のつまみをもつ。回転軸整形。天井部回転ケズリ、内面ラセンナデ。	2/3	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木葉下産
	8		05N-T5-001-64	須恵器・有蓋小 坏蓋	端径 [12.8] 器高 2.6	つまみを欠失。端部・かえりは薄くシャープで丁寧なつくり。回転軸整形。天井部の回転ケズリ調整を僅かに止める。	1/3	長石・石英細 粒多量、白雲 母	焼成 不良 やや 軟質	5YR 4/1 褐灰	新治産
	9		05N-T5-001-97	須恵器・有蓋小 坏蓋	端径 [11.4] 器高 3.2	外面全体に濃緑色の自然釉が付着。偏平なつまみをもち、全体的器壁が厚く鈍重で、かえりもシャープさに欠ける。回転軸整形。天井部回転ケズリ。	1/2	細かい長石・ 砂粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 7/1 灰白	湖西産
	10		05N-T5-001-186 ほか	須恵器・有蓋小 坏身	口径 10.6 器高 3.7	シャープな器形でやや丸底形態。回転軸整形。体部のロクロ目は平滑にナデ消される。底部回転ヘラ切り無調整。粘土塊が付着する。	2/3	長石・石英・ チャート細 粒・黒色粒子	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木葉下産

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考
				細別						(外面・内面)	
第62図	11	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T5-001-1	須恵器・有蓋小 坏身	口径 [11.0] 器高 (4.4)	体部下端で屈曲し、外傾して口縁部に至る。回転轆轤整形。体部内外面はロクロ目の目立たない平滑なナデ。底部は回転ケズリ調整。	1/2	長石・石英の 細粒	焼成 普通 やや 軟質	2.5YR 7/2 灰黄	木葉下産 (山田窯カ)
	12		05N-T5-001-193	須恵器・有蓋小 坏身	口径 [10.7] 器高 3.4	体部・口縁部はやや肉厚なつくり。体部はややハの字に外傾して立ち上がる。回転轆轤整形。体部のナデはロクロ目なく平滑。底部は回転ヘラ切り無調整で体部下端に粘土柱の痕跡を遺す。	2/3	長石・石英の 粗い粒	焼成 良好 やや 軟質	5Y 4/1 灰	新治産カ
	13		05N-T5-001-157	須恵器・有蓋小 坏身	口径 [11.0] 器高 3.1	やや扁平な器形。平底形態。回転轆轤整形。体部のロクロ目は平滑にナデ消され、底部は回転ヘラ切り後、回転ナデ。	1/3	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産
	14		05N-T5-001-1	須恵器・有蓋小 坏身	口径 9.2 器高 3.5	回転轆轤整形。内面はロクロ目の目立たない平滑なナデ。外面にはロクロ目を明瞭に遺す。底部回転ヘラ切り後、手持ヘラナデか。	1/2	長石・石英細 粒・白雲母微 粒	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 6/1 黄灰	新治産カ
	15		05N-T5-001-4 ほか	須恵器・有蓋小 坏身	口径 [8.4] 器高 3.3	かなり矮小化した法量。回転轆轤整形。体部のナデはロクロ目を遺す。底部は回転ケズリを2段施し、その調整は極めて丁寧。	1/4	長石・石英・ チャートの細 粒・骨針	焼成 良好 やや 軟質	5YR 3/1 黒褐	木葉下産
	16		05N-T5-001-1	須恵器・短脚小 坏	器高 (1.8)	回転轆轤整形。外面は回転ケズリ、脚接合後ナデ。脚部内面は削り貫きナデ。内面はラセンナデ。	底部のみ	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産
	17		05N-T5-001-88	須恵器・長頸瓶	頸径 [5.6] 器高 (6.8)	内面に濃緑色の自然釉が飛散する。回転轆轤整形。シボリ痕跡は認められない。	頸部 1/2	長石細粒・砂 粒・黒色粒子	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 7/1 灰白	湖西産
	18		05N-T5-001-1 ほか	須恵器・無台 蓋	口径 [13.5] 器高 4.9	。器壁が薄く丁寧なつくり。端部は内側へ強く折り込まれ、かえりの退化形態ようになる。回転轆轤整形。天井部は回転ケズリを施す。	2/3	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産
	19		05N-T5-001-175 ほか	須恵器・有台 坏	口径 [13.8] 器高 4.8	木器壁が薄くシャープなつくり。口縁部外面に沈線をもち、高台端部は外方へ突出する。回転轆轤整形。体部は丁寧なナデを施し、ロクロ目がみられない。底部は回転ケズリ、高台接合後ナデ。No.43高台付坏と同工品か。	3/4	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木葉下産

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形		法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
				細別							(外面・内面)		
第62図	20	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T5-001-184	須恵器・有台坏	口径 [13.8] 器高 4.8	器壁が薄くシャープな つくり。口縁部外面に 沈線をもち、高台端部 は外方へ突出する。回 転轆轤整形。体部は丁 寧なナデを施し、ロク ロ目がみられない。底 部は回転ケズリ、高台 接合後ナデ。No.42 高 台付坏と同工品か。	1/2	長石・石英・ チャート細粒	焼成 普通 やや 軟質	2.5Y 6/2 灰黄	木葉下産		
	21		05N-T5-001-169 ほか	須恵器・有台坏	口径 14.8 器高 4.6	肉厚で鈍重なつくり。 体部は強く外傾し口縁 部に至る。高台畳付は 凹み、端部は突出する。 回転轆轤整形。底部 回転ヘラ切り後高台貼 付ナデ。内面にクレ ーター状剥離。	100%	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産		
	22		05N-T5-001-65 ほか	須恵器・有台坏	器高 (2.6) 台径 8.2	高台は畳付に凹みをも ち、幅広。端部は外方 へ突出。回転轆轤整形。 底部は回転ケズリ後高 台貼付ナデ。	体部欠	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 6/2 灰黄	木葉下産		
	23		05N-T5-001-98	須恵器・高坏	口径 12.7 器高 10.2	脚部下位に沈線を有す る。坏部はやや深身で 階様式の高脚杯を模し たものか。回転轆轤整 形。坏底部を回転ケズ リ後、別作りの脚部を 接合、周囲をナデ調整。	脚・口縁 一部欠	長石・石英	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 4/1 灰	木葉下産カ		
	24		05N-T5-001-16	須恵器・圈脚円 面硯	脚径 [16.4] 器高 (4.3)	縦長方形透しと1条の 刻み目が交互に配置さ れる。これらの下端に 1条の沈線、その直下 に凸帯を巡らす。脚端 部は突出し、畳付には 凹みをもつ。透し内側 の周縁は面取りが施さ れ、シャープで丁寧な つくり。回転轆轤整形。	—	長石・石英・ チャート細 粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	10YR 4/1 褐灰	木葉下産		
第63図	25		05N-T5-001-256	須恵器・高台鉢	口径 [16.8] 器高 6.9	器壁は厚く、鈍重だが、 丁寧なつくり。回転轆 轤整形。体部上半付近 まで3段にわたってケ ズリ調整し、体部上位 で稜をなす。高台貼付 後の調整が甘く、貼付 痕跡が遺る。稜をもち、 高台端部が張り出すこ とから金属器模倣の高 台鉢と理解した。	1/2	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 6/2 灰黄	木葉下産 (山田 窯産カ)		
	26		05N-T5-001-206 ほか	須恵器・短脚盤	口径 19.1 器高 7.1	肉厚で鈍重なつくり。 口縁部は外傾し丸く おさまる。脚端部は下 方へシャープに突出す る。回転轆轤整形。底 部外面回転ケズリ、脚 部接合後回転ナデ。	ほぼ完形	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 4/1 灰	木葉下産		

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考
				細別						(外面・内面)	
第63図	27	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T5-001-47	須恵器・短脚盤	器高 (1.5)	回転轆轤整形。遺存部外面は回転ケズリ後ナデ。脚部接合痕を遺す。内面はラセンナデ。	脚・口縁 欠	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	7.5Y 6/1 灰	木葉下産
	28		05N-T5-001-81	須恵器・短脚盤	口径 20.6 器高 6.2	器壁が薄く全体的にシャープなつくり。回転轆轤整形。器面全体を丁寧にナデ。ロクロ目を看取できない。底部外面に僅かに脚部接合痕を遺す。脚部内面は工具による削り貫きか。	口縁 2/3 欠	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 7/1 灰白	木葉下産
	29		05N-T5-001-1	須恵器・短脚盤	口径 [22.9] 器高 (3.9)	丁寧だが鈍重なつくり。回転轆轤整形。底部外面は回転ケズリ、脚部接合後回転ナデ。内面はオサエ後手持ナデ。	口縁 1/5 遺存	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木葉下産
	30		05N-T5-001-287	須恵器・短脚盤	器高 (2.8)	回転轆轤整形。外面は回転ケズリ、脚部接合後ナデ。内面はオサエ後手持ナデ。	脚・口縁 欠	長石・石英・ チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産
	31		05N-T5-001-104	須恵器・大埴	口径 19.0 器高 6.1	体部下位に明確な稜をもち、口縁部は内湾しながら立ち上がる。口唇部はやや膨らみをもつ。回転轆轤整形。体部は内外面共にロクロ目の薄い平滑なナデが施され、体部下端には回転ケズリ調整が加えられる。高台器種か。	1/6	長石・石英・ チャート細 粒・骨針・黒 色粒子	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 6/1 灰	木葉下産
	32		05N-T5-001-107	土師器・鉢	口径 [18.2] 器高 6.5	漆塗黒色。銅鉢模倣器種。口縁部外面に鑄造轆轤挽きの2条沈線を模し、口唇部は玉縁状に僅かに膨らむ。体部から底部にかけての外面を丁寧なケズリで丸みを帯びた器形に調整している。器壁は極めて薄い。内外面は、乾燥段階で極めて細かくミガキが施されているようで、光沢感をもつがミガキ単位は不明である。	1/4	長石・石英細 粒・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	10YR 6/4 にぶい 黄橙	
	33		05N-T5-001-203	土師器・小坏	口径 [11.2] 器高 3.3	赤色系。口縁部直立／無段有稜／平底形態。口縁部ナデ、底部外面細かいケズリ、内面ナデ。	1/2	長石・石英細 粒・スコリア	焼成 良好 やや 硬質	2.5YR 5/8 明赤褐	北武蔵産?
	34		05N-T5-001-211 ほか	土師器・小坏	口径 11.2 器高 4.0	赤色系。口縁部外傾／有段／丸底形態。やや肉厚で鈍重。口縁部ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。底部内面にクレーター状剥離。	3/4	長石・石英・ チャート細 粒・スコリア	焼成 普通 やや 軟質	2.5Y 5/6 明赤褐	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考
				細別						(外面・内面)	
第63図	35	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T5-001-1	土師器・小埴	口径 11.4 器高 3.7	赤色系。口縁部直立／無段無稜／丸底形態。口唇部内面は面取りが施され、断面は小さい三角形になる。外面は口縁部ナデ、体部・底部ケズリ後細かくミガキが施される。内面はナデ後放射状暗文が施される。	1/2	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成良好やや硬質	5YR 5/8 明赤褐	
	36			土師器・小坏	口径 11.4 器高 4.1	漆塗黒色。口縁部直立／無段有稜／丸底形態。口縁部ナデ。底部外面ナデ、内面ナデ。外面の稜直下に粘土輪積痕。	1/3	長石・石英細粒・スコリア	焼成良好硬質	7.5YR 2/1 黒	
	37		05N-T5-001-83	土師器・小坏	口径 [12.4] 器高 4.4	漆塗黒色。口縁部直立局部外反／無段有稜／丸底形態。口縁部は玉縁状に膨らむ。底部は外面ケズリ、内面ナデ。	1/3	長石・石英細粒・スコリア・白雲母	焼成良好やや軟質	10YR 4/1 褐灰	
	38		05N-T5-001-92	土師器・小埴	口径 11.8 器高 4.4	赤色系。肉厚で鈍重なつくり。いわゆる手捏土器を思わせる。器面の剥離が激しく、観察は困難。外面はケズリ、内面および口縁部はナデ調整だろう。	ほぼ完形	長石・石英・チャート細粒・スコリア・骨針	焼成普通軟質	5Y 5/6 明赤褐	
	39		05N-T5-001-163	土師器・小坏	口径 [12.2] 器高 (3.6)	赤色系。口縁部直立／無段有稜／丸底形態。比較的シャープなつくり。口縁部断面は三角形。底部外面はケズリ、内面はナデ。	1/4	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成良好やや軟質	5YR 5/6 明赤褐	
	40		05N-T5-001-66	土師器・小坏	口径 11.6 器高 4.3	漆塗黒色。口縁部外傾／無段有稜／丸底形態。口唇部はやや内屈して内面に沈線をもつ。口縁部ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。	1/3	長石・石英細粒・スコリア	焼成良好やや軟質	7.5YR 2/1 黒	
	41		05N-T5-001-127 ほか	土師器・皿	口径 [15.0] 器高 3.5	褐色系。扁平な器形で器壁は肉厚。口唇部はシャープに尖り、口縁部断面は三角形におさまる。口縁部ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。外面に粘土輪積痕。	2/3	長石・石英細粒・スコリア・黒雲母	焼成良好やや硬質	7.5YR 5/4 にぶい褐	
	42		05N-T5-001-125 ほか	土師器・小坏	口径 9.8 器高 3.7	赤色系。口縁部直立／無段有稜／丸底形態。口縁部ナデ。底部外面ケズリ、内面はナデ。内面には工具痕が沈線状に遺されている。外面の稜直下に粘土輪積痕。	1/2	長石・石英・チャート細粒・スコリア・黒雲母	焼成良好やや硬質	5YR 5/6 明赤褐	
	43		05N-T5-001-6 ほか	土師器・小坏	口径 9.2 器高 3.1	漆塗黒色。口縁部直立／無段有稜／丸底形態。口唇部は玉縁状に膨らむ。口縁部ナデ。底部外面は幅狭なケズリ、内面はナデ。	2/3	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成良好やや軟質	10YR 3/1 黒褐	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考	
				細別						(外面・内面)		
第63図	44	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T5- 001-5 ほか	土師器・小皿	口径 [11.8] 器高 3.1	褐色系。浅身で丸底形態。器壁は薄くシャープなつくり。口唇部の内側への屈曲は畿内様式の模倣か。口縁部および体部内面のナデには光沢をもち、乾燥段階での精緻なミガキを思わせる。体部外面のケズリは幅狭。	1/2	長石・石英・チャート細粒・スコリア・黒雲母	焼成良好やや硬質	7.5YR 5/6 明褐		
	45		05N-T5- 001-4 ほか	土師器・小皿	口径 12.0 器高 3.1	赤色系。狭小な底部から斜めに立ち上がり、口唇部は内屈しおさまって、内面に沈線をもつ。口縁部ナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ後放射状暗文を施す。	1/3	長石・石英細粒・スコリア中	焼成良好やや硬質	2.5YR 5/8 明赤褐	北武蔵産?	
	46		05N-T5- 001-52	土師器・皿		褐色系。偏平な器形で器壁は肉厚。口唇部はややシャープに尖っておさまる。口縁部ナデ。底部外面をケズリ、内面ナデ後暗文が施される。内面にはクレター状剥離。外面には光沢感があり、乾燥後にミガキが施された可能性がある。	1/4	長石・石英細粒・黒雲母・スコリア	焼成良好やや硬質	5YR 3/1 黒褐		
	47		05N-T5- 001-255 ほか	土師器・蓋	端径 [16.0] 器高 3.0	赤色系。やや肉厚だが精巧なつくりをする。全体はやや楕円状に歪みをもつ。内外面ともに丁寧なミガキ調整が施される。つまみ上部は一方向ミガキ、天井部にはミガキ前の回転ケズリの痕跡を止める。内面は放射状暗文のミガキ。	1/3	長石・石英細粒・黒色粒子	焼成良好硬質	2.5YR 5/8 明赤褐		畿内産系
第64図	48		05N-T5- 001-102	土師器・小形甕	口径 [14.0] 器高 (9.5)	口縁部は屈曲・外反して立ち上がる。外面ケズリ、内面ナデ。内面のとくに頸部付近にコゲが分厚く付着する。	1/8	長石・石英・白雲母	焼成良好普通	10YR 4/3 にぶい黄褐	新治産?	
	49		05N-T5- 001-4 ほか	土師器・小形甕	口径 [13.8] 器高 (7.5)	胴部最大径付近からやや内傾して立ち上がり、口唇部が玉縁状に丸まっておさまる。口縁部には沈線を有する。明確な頸部をもたない。外面ケズリ、内面ナデ。	—	長石・石英・チャート細粒・スコリア・骨針	焼成良好やや硬質	7.5YR 5/4 にぶい褐	在地産精製	
	50		05N-T5- 001-271 ほか	土師器・小形甕	口径 [14.0] 器高 14.7	口縁部は外反し、口唇部が突帯状になる。胎土は精選されている。外面はケズリ、内面はナデ、ともに丁寧に調整されるが、粘土組輪積痕を遺す。底部は平底状になり、ゆるいケズリを施す。	2/3	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成良好やや軟質	10YR 6/4 にぶい黄橙		

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考
				細別						(外面・内面)	
第64図	51	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T5- 001-71 ほか	土師器・小形甕	口径 [13.8] 器高 16.0	口縁部は外傾しながら立ち上がり、頸部直下に段を形成する。器面の摩耗が激しい。外面ヨコケズリ、内面ヨコナデ。底部外面はケズリ調整がされるが一部に木葉痕を遺す。胴部下端にタール状の付着を観察できる。	1/2	長石・石英・スコリア・黒雲母	焼成普通 やや軟質	10YR 5/2 灰黄褐	
	52		05N-T5- 001-120	土師器・小形甕	口径 [13.6] 器高 (9.8)	頸部に段をもたず口縁部が外反する。口唇部は膨らんで突出する。外面のケズリは口縁部外面のナデにまで及ぶ。内面ナデ。頸部に粘土紐輪積痕を遺す。	1/8	長石・石英細粒・白雲母	焼成良好 やや硬質	10YR 4/2 灰黄褐	
	53		05N-T5- 001-150	土師器・小形甕	口径 [12.4] 器高 (7.0)	頸部に段をもたず、口縁部がやや内傾気味に直口する。外面はハケメ調整。内面は斜方向のナデ。	—	長石・石英細粒・白雲母	焼成良好 やや硬質	7.5YR 7/6 橙	在地産東北系カ
	54		05N-T5- 001-4	土師器・小形甕	器高 (4.0)	外面はハケメ調整。内面は斜方向のナデ。	—	長石・石英・チャート細粒・黒雲母・スコリア	焼成良好 やや硬質	7.5YR 7/6 橙	在地産東北系カ
	55		05N-T5- 001-4	土師器・小形甕	器高 (3.1)	外面はハケメ調整。内面は斜方向のナデ。	—	長石・石英・チャート細粒・黒雲母・スコリア	焼成良好 やや軟質	5YR 5/4 にぶい赤褐	在地産東北系カ
	56		05N-T5- 001-41	土師器・小形甕	器高 (3.4)	外面はハケメ調整。内面は斜方向のナデ。	—	長石・石英・チャート細粒・黒雲母・スコリア	焼成良好 やや軟質	5YR 5/4 にぶい赤褐	在地産東北系カ
	57		05N-T5- 001-1 ほか	土師器・小形甕	器高 (7.7)	丸底形態である。器壁がやや厚く鈍重である。外面を細いケズリで調整。内面はナデ。	1/4	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成良好 普通	5YR 4/4 にぶい赤褐	
	58		05N-T5- 001-236	土師器・小形甕	口径 17.8 器高 14.9	土圧で全体の器形がやや歪む。口縁部内面と外面全体に赤彩の痕跡あり。胴部外面は斜下方ヘケズリ、内面はヨコナデ。胴部外面に黒斑が観察できる。	完形	長石・石英・チャート細粒・骨針	焼成良好 やや軟質	10YR 6/4 にぶい黄橙	
	59		05N-T5- 001-199	土師器・小形甕	口径 [15.0] 器高 (8.7)	丁寧なつくり。口唇部外面に沈線をもつ。短い口縁部が屈曲外反して伸びる。胴部は寸胴形。外面にケズリ、内面にナデを施すが、部分的に粘土紐輪積痕跡をよく止める。	1/8	長石・石英・黒雲母・スコリア	焼成良好 普通	10YR 6/3 にぶい黄橙	在地産精製。
	60		05N-T5- 001-182	土師器・小形甕	底径 8.3 器高 (8.3)	被熱のためか、器面が荒れて摩耗しており、調整の詳細を観察することはできない。やや下膨れの器形で、外面のケズリが二次底部面を形成している。外面と内面の一部にススが付着。	1/4	長石・石英細粒・黒雲母・スコリア	焼成良好 やや軟質	10YR 5/3 にぶい黄褐	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考
				細別						(外面・内面)	
第64図	61	台渡里庵寺跡 (26次)	05N-T5- 001-100	土師器・小形甕	底径 5.3 器高 (7.7)	胴部がやや丸みを帯びる器形。胴部外面はケズリ、下端をヨコナデし、底部が突出する器形。底部はケズリ調整だが、丸底形態。胴部内面は、ヨコナデによって器面が調整される。内面にコゲのような痕跡が付着。	1/2	長石・石英・チャート	焼成不良軟質	10YR 6/6 赤橙	
第65図	62		05N-T5- 001-4 ほか	土師器・小形甕	頸径 [15.9] 器高 (15.6)	頸部直下をタテケズリし、段を形成する。胴部外面は横方へヘラナデが施される。内面もヨコナデを主とする。底部はやや窄まる器形となる。	口縁部・底部欠	長石・石英・スコリア・黒雲母	焼成普通やや軟質	10YR 6/3 にぶい黄橙	
	63		05N-T5- 001-96 ほか	土師器・甕	口径 16.5 器高 (10.9)	口唇部丸く膨らみ、その直下に沈線状の凹みをもつ。頸部外面は斜方にケズリを施した後、弱いナデを施す。胴部外面は頸部に向かってケズリが施され頸部直下に工具痕を遺す。口縁部内面はナデ。頸部内面では面取りが施され、胴部内面はナデによる器面調整がされる。	胴部下欠	長石・石英の細粒・スコリア	焼成普通やや軟質	7.5YR 7/4 にぶい橙	
	64		05N-T5- 001-20 ほか	土師器・甕	胴径 [22.4] 器高 (14.1)	やや丸みを帯びる器形。頸部付近より上と底部を欠失する。外面上部は上方へ向かってケズリ調整、下部は下方へ向かってケズリ調整。内面は主にヨコナデ。	胴部片	長石・石英・チャートの細粒・スコリア	焼成普通やや軟質	10YR 6/3 にぶい黄橙	
	65		05N-T5- 001-190 ほか	土師器・甕	底径 8.5 器高 (10.2)	外面は、胴部・底部共ケズリ調整。底部はやや平底。内面はランダムなナデによる調整。	1/3	長石・石英・チャート・スコリア・骨針	焼成良好やや硬質	10YR 7/4 にぶい黄橙	
	66		05N-T5- 001-54 ほか	土師器・甕	底径 7.7 器高 (8.4)	外面上部は上方へケズリ。下部は斜下方へケズリ。底部もケズリ。内面は主にヨコナデ。	1/4	長石・石英・チャート・骨針	焼成普通やや軟質	7.5YR 4/2 灰褐	
	67		05N-T5- 001-94 ほか	須恵器・横瓶	器高 (16.9)	側胴部のみ破片。内面・外面とも円盤閉塞技法の痕跡をよく遺す。外面は左周りに平行タタキを施し、内面は同心円文の当て具痕を、閉塞円盤部分は、オサエ痕跡を明瞭に遺す。	胴部片	長石・石英・チャート細粒	焼成良好硬質堅緻	5Y 5/1 灰	木葉下産
	第66図	1		05N-T5- 004-3	土師質小皿・(かわらけ)	口径 [7.8] 器高 2.2 底径 3.9	口縁部がやや肥厚し丸くおさまる。口縁部にスス付着。燈明皿か。回転軸調整形。底部回転糸切り。	1/2	長石・石英細粒・スコリア・黒雲母	良好やや軟質	10YR 7/4 にぶい黄橙

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考
				細別						(外面・内面)	
第 66 図	2	台渡里廃寺跡 (26 次)	05N-T5-004-3	土師質土器・ 内耳土鍋	口径 31.4 器高 (17.6)	器壁はやや厚く、内耳のつく口縁部は外湾したのち、直立して角張っておさまる。耳は三つの典型的な常陸型土鍋。外面全体にスス。全体は平滑にオサエで整える。口唇部は回転ナデ。内面は全体ヨコナデ。内耳接合部はナデ後面取り。内面下端に粘土紐接合痕跡が確認できる。長者山城関連か。	3/4	長石・石英細粒・スコリア・黒雲母	良好 やや軟質	5YR 5/6 明赤褐	在地産
	3		05N-T5-004-3	土師質土器・ 内耳土鍋	口径 33.0 器高 (16.2)	器高がやや低く、口縁部は直立する。肉厚で胴部は外傾し角張っておさまる。耳は三つの典型的な常陸型土鍋だがうち二つを欠失。外面全体にスス。全体は平滑にオサエで整え下端部にケズリを施す。口唇部は回転ナデ。内面は全体ヨコナデ。内耳接合部はナデ後面取り。長者山城関連か。	2/3	長石・石英細粒・スコリア・黒雲母	良好 やや軟質	7.5YR 6/8 橙	在地産
第 67 図	1		05N-T7-001-2 ほか	土師器・有台坏	口径 [17.6] 器高 (5.1)	高台部欠失。口縁部がハの字に開き伸びておさまる。器壁は薄く、丁寧なつくり。回転轆轤整形。外面下端～底部は回転ケズリ後高台貼付し接合部を回転ナデ。内面は回転ナデ後細かくミガキを施す。いわゆる燻し焼成により内面が黒く発色している。	1/5	長石・石英・スコリア・白色雲母	焼成 普通 やや軟質	10YR 4/2 灰黄褐	新治産
	2		05N-T7-001-2	須恵器・有台坏	台径 [9.3] 器高 (3.3)	坏部欠失。高台がかなり長く伸び、端部は丁寧に面取りされる。高台部の付け根から体部がハの字に広がる器形が想定される。9 世紀中葉の所産とみる。回転轆轤整形。内面は平滑な回転ナデ。底部回転ヘラキリ後、中央部を残して回転ケズリを施す。高台貼付、接合部を回転ナデ。肉厚ながら比較的丁寧な器面調整を行う。	底部片	長石・石英・チャート細粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	7.5Y 5/1 灰	木葉下産
	3		05N-T7-001-1	須恵器・フラスコ形瓶	胴径 [14.5] 器高 (8.8)	外面にはやや暗い濃緑色の釉薬が分厚く垂下する。内面はラセンナデが強く痕跡として遺る。復元径からして少し小振りのものであろう。	—	長石・砂粒・黒色粒子多	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 5/1 灰	東海系(産地不明)

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考	
				細別						(外面・内面)		
第67図	4	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T7-002-1	須恵器・有台長頸瓶?	台径 8.2 器高 (2.7)	肉厚だが、高台端部のつくりが丁寧で両側に突出しておさまる。壺瓶類の底部と推定した。底部内面には円形に濃緑色の自然釉が降下していることから、口径のさほど大きくない長頸瓶であろう。回転轆轤整形。底部外面は回転ケズリ後高台貼付で接合部が回転ナデ調整される。	底部片	長石細粒・砂粒・黒色粒子	焼成良好 硬質 堅緻	5Y 6/1 灰	湖西産カ	
	5		05N-T7-002-2	須恵器・甕	頸径 [16.4] 器高 (4.8)	胎土が極めて密でなめらか。やや器壁が厚いが精緻なつくりである。外面は細い平行叩きを斜方向に施し、内面は強いナデによって器面を均質に整えている。	頸部片	長石・石英・チャート細粒	焼成良好 硬質 堅緻	10YR 6/1 灰	湖西産模倣の木葉下産カ	
	6		05N-T7-003-3 ほか	土師器・小坏	口径 [10.6] 器高 3.3	漆塗黒色(両面)。口縁部内傾/無段無稜/丸底形態。大部分の漆が剥離している。口縁部ナデ、底部外面ケズリ。底部内面は手持ちナデ。	1/3	長石・石英・チャート・スコリア細粒・骨針	焼成普通 やや軟質	5YR 5/6 明赤褐		
	7		05N-T7-003-3 ほか	土師器・小坏	口径 [10.6] 器高 2.5	漆塗黒色(両面)。口縁部内傾/無段無稜/丸底形態。大部分の漆が剥離している。口縁部ナデ、底部外面ケズリ。底部内面は手持ちナデ。	1/3	長石・石英・チャート・スコリア細粒・骨針	焼成普通 やや軟質	5YR 5/6 明赤褐		
	8		05N-T7-003-1	土師器・皿	口径 [14.4] 器高 (3.0)	赤色系。口縁部が短くやや外傾しておさまる。底部はやや平底気味におさまるか。肉厚だが丁寧で精緻なつくり。外面のケズリは単位が細く長い。内面はナデ。搬入品か。	1/2	長石・石英細粒・黒雲母	焼成良好 やや軟質	2.5YR 5/6 明赤褐		
	9		05N-T7-003-2	土師器・皿	口径 [19.0] 器高 3.3	橙色系。在地産精製。やや器壁が厚く、口唇部は丸まっておさまる。極めて偏平な器形。口縁部はナデ。底部は外面を長く太い単位でケズリ、内面を手持ちナデにより調整する。	1/4	長石・石英・スコリア細粒	焼成良好 やや軟質	5YR 6/6 橙		
	10		05N-T7-003-1	土師器・皿	口径 [23.8] 器高 (2.9)	赤色系。畿内産系。丸く肥厚した口唇部外面直下に沈線を有する。内面ナデ後放射状暗文、外面ケズリ後ミガキ。	1/6	長石・石英細粒・砂粒	焼成良好 やや硬質	2.5YR 5/6 明赤褐		

図版	番号	遺跡名	出土	種別・器形 細別	法量	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調	備考
										(外面・内面)	
第67図	11	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T7-003-1	土師器・坏	口径 [14.6] 器高 (3.5)	赤色系。畿内(産)系。口唇部は上方へ立ち上がり、やや尖っておさまる。器壁は薄く精巧なつくり。外面は横方へ細かいミガキ。口縁部内面はヨコナデ。底部は放射状暗文。	口縁部片	長石・石英細粒・砂粒	焼成 良好 やや 軟質	5Y 5/6 明赤褐色	
	12		05N-T7-003-2	土師器・甕	口径 14.8 器高 (6.2)	やや肉厚だが、丁寧なつくりである。頸部に明瞭な段が形成され、口縁部はハの字に外反して立ち上がる。口唇部はやや膨らみ、丸みを帯びておさまる。頸部内面の付け根に粘土紐接合痕を遺す。外面ケズリ、内面ナデ。	頸部片	長石・石英・チャート細粒・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	7.5YR 6/4 にぶい 橙	在地産精製
	13		05N-T7-003-1 ほか	土師器・甕	口径 [29.6] 器高 (12.5)	常陸型甕。胴部下半を欠失するが、突出する口縁部形態とザラついた粗い胎土が特徴的である。器壁は薄く丁寧なつくりをなす。内外面とも工具によるナデ調整で平滑に整える。	口縁部片	長石・石英粗粒・白雲母	焼成 良好 やや 軟質	7.5YR 5/6 明褐	新治産
	14		05N-T7-003-3	須恵器・有台坏	台径 [10.8] 器高 (1.8)	坏部を欠失。高台は細く短い。端部はやや外方へ突出しておさまる。高台の形状から高台器種生産の最も低調なⅡa期の製品と推察できる。回転轆轤整形。内面にラセンナデ。外面に回転ケズリ。	底部片	長石・石英・チャート細粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	2.5Y 5/1 黄灰	木葉下産
	15		05N-T7-003-2	須恵器・低脚盤	端径 [11.4] 器高 (4.0)	器壁が薄く精緻なつくり。端部はシャープに上下に突出する。回転轆轤整形。	脚部片	長石・石英・チャート細粒	焼成 良好 硬質 堅緻	5Y 6/1 灰	木葉下産
第68図	1		05N-T7-004-2 ほか	土師器・坏	口径 [13.8] 器高 6.3	漆塗黒色。口縁部内傾／有段／丸底形態。口縁部は長く伸び、口唇部でやや肥厚して丸く取まる。全体の器形は深身で底部はやや薄くシャープ。口縁部直下の段はナデツケにより形成される。底部外面はやや幅広のケズリによって調整される。	1/3	長石・石英細粒・骨針・スコリア	焼成 良好 やや 軟質	10YR 3/2 黒褐	
	2		05N-T7-004-1	須恵器・有台盤	台径 [16.6] 器高 (2.6)	高台端部はやや外反して突出して丸くおさまる。回転轆轤整形。底部回転ケズリ後高台貼付し接合部を回転ナデ。	高台片	長石・石英・チャート細粒・骨針	焼成 良好 硬質 堅緻	N 4/ 灰	木葉下産

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形		法量 (cm)	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調		備考
				細別							(外面・内面)		
第68図	3	台渡里廃寺跡 (26次)	05N-T8 一括	土師器・埴		器高 (5.5)	漆塗黒色か。口縁欠のため未詳だが、埴形の器形ではないか。やや平底気味の底部で段や稜をもたずに立ち上がる。軟質で器面の剥離が激しい。外面はケズリ調整。内面はナデ→ランダムにミガキをかけた後、放射状暗文風にミガキ仕上げとする。	2/3	長石・石英・チャート細粒・骨針	焼成普通軟質	7.5YR 6/6 橙		
第70図	1		トレンチ4	縄文土器	口径 (32.0) 器高 [5.3]	口径 32.0 cm (残存率 12%)。複合口縁、弧状文 (櫛歯状工具)	口径 12%	砂粒 (白・黒・褐)、小石	良好	にぶい黄橙・黒褐	晩期		
	2		トレンチ4	縄文土器	—	縄文 (LR)	底径 19%	砂粒 (白多・透多)	良好	にぶい黄褐～黒褐・黒褐	晩期		
	3		トレンチ4	縄文土器	—	縄文 (RL)	底径 19%	砂粒 (白多・透多)	良好	にぶい橙・にぶい黄褐	晩期		
	5		トレンチ4	丸瓦	全長 (21.7) 厚さ (3.7) 重量 1045 g	凸面格子叩き→横方向ケズリ、凹面布目痕		砂粒 (白・黒・透)	硬質	2.5Y7/2 灰黄	山田窯産カ		
	6		トレンチ7	平瓦	全長 (9.8) 厚さ (2.6) 重量 505 g	凸面格子叩き、凹面布目痕		砂粒 (白・黒・透)	やや硬質	10Y8/3 浅黄橙			
	7		トレンチ4	平瓦	全長 (7.9) 厚さ (2.2) 重量 149 g	凸面格子叩き、凹面布目痕		骨針、砂粒 (白・透)	硬質	7.5YR6/1 灰			
	8		トレンチ7	平瓦	全長 (10.2) 厚さ (2.5) 重量 289 g	凸面横方向ケズリ、凹面糸切り痕→布目痕		砂粒 (白多・透多)	やや硬質	7.5YR 7/6 橙			

・括弧内の数値は、復元された口径や底径、または残存高を示す。

〈第3表 凡例〉

*「胎」の記載には、次の記号を使用する。

「金」: 金色を呈する風化した黒雲母片 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「骨針」: 白色針状物質とも表記される海綿骨針 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「白」: 白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「黒」: 黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「透」: 透明で石英と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

第4表 石器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
第70図	4	台渡里廃寺跡(26次)	05N-T7・SB003-1	剥片	チャート	20.0	29.0	7.0	4.0	

第5表 金属製品観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
第29図	1	中河内遺跡(第1地点)	トレンチ	釘	鉄	106.0	28.0	1.85	25.0	
第51図	7	堀遺跡(第3地点)	確005フクド2区	釘	鉄	(49.0)	60.0	5.0	6.0	両側欠?, 一部板状に剥離。
第69図	1	台渡里廃寺跡(26次)	05N-T1-001	釘	鉄	(61.0)	40.0	4.5	5.0	上半部欠。
	2		05N-T1-001	吊手金具	鉄	(66.0)	50.0	1.5	7.0	一部欠・3片接合, やや歪む。
	3		05N-T4-005-369	刀子	鉄	(135.0)	11.0	2.0	15.0	刃先欠・茎端欠, 刀身はやや研ぎ減っている。
	4		05N-T4-005 下層	椀形滓	鉄	60.0	55.0	11.0	55.0	やや小形。
	5		05N-T5-001-1	鉄鏃?	鉄	(55.0)	5.0	2.5	5.0	茎下半欠, 全体的にやや歪み。
	6		05N-T5-001-3	鉄鏃?	鉄	(45.0)	5.0	2.5	3.0	両側欠・2片接合, 茎部か。歪みをもつ。
	7		05N-T5-001-3	鏃?	鉄	(36.0)	5.0	3.0	2.0	両側欠, く字に屈曲する。
	8		T5-001-289	鏃?	鉄	44.0 + 43.0	9.0	7.0	15.0	両側欠?ひび割れ。直角に折れ曲がる。
	9		T5-001-4	鉾?	鉄	(22.0)	1.0	1.0	1.0	下半欠, 頭径0.8cm。
	10		T5-001-2	鏃?	鉄	(103.0)	17.0	2.0	18.0	両側欠, 研ぎ減り?全体にやや反る。
	11		05N-T7-003 下層	椀形滓	鉄	83.0	73.0	36.0	202.0	

・計測値は、残存する状態での最大値である。

引用・参考文献

- 伊藤廉倫 1995 『茨城県水戸市 堀遺跡—住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 井上義安 1988 『水戸市大鋸町遺跡（仮称）元吉田第三住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市大鋸町遺跡発掘調査会
- 1990 『薬王院東遺跡 千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市薬王院東遺跡発掘調査会
- 井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本睦子 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2001 『茨城県遺跡地図』
- 大森信英 1952a 「渡里村大字堀字西原四号地下式墳」『茨城高等学校史学部紀要』第1号 茨城高等学校史学部
- 1952b 「渡里村大字堀字西原の地下式墳」『茨城高等学校史学部紀要』第1号 茨城高等学校史学部
- 小川和博・大淵淳志・川口武彦・松谷暁子 2006 『台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 斎藤 洋・新垣清貴 2005 『大鋸町遺跡 グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・グランディハウス株式会社・株式会社地域文化財コンサルタント
- 佐々木藤雄・関口慶久・大橋 生・林 邦雄 2006 『大鋸町遺跡（第3地点）—市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 細谷弘一・佐藤次男・川井正一・根本康弘・市毛美津子 1994 『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書—』内原町史編さん委員会

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうななねんどもしないいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	平成 17 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第 11 集							
編集者名	川口武彦・渥美賢吾							
著者名	川口武彦・関口慶久・新垣清貴・渥美賢吾・色川順子・木本挙周							
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒 310-8610 茨城県水戸市中央 1-4-1 ☎ 029-224-1111 (代)					
発行年月日	2007 (平成 19) 年 3 月 27 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 。'。"	東経 。'。"	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
あつくつ 環遺跡 (第 2 地点)	かわわだ 河和田町 1 丁目 1639-1 の一部	08201	015	36° 22' 27"	140° 24' 45"	2005.8.22 ~ 8.26	58.4	共同住宅建築
あつくつ 環遺跡 (第 3 地点)	かわわだ 河和田町 1645-13	08201	015	36° 22' 27"	140° 24' 45"	2005.9.15 ~ 9.16	5.8	宅地造成工事
えがわやわた 江川館跡 (第 1 地点)	うちほら 内原町字タテ 585-1	08305	059	36° 22' 04"	140° 21' 51"	2005.10.12	2	個人住宅建築
えがわやわた 江川館跡 (第 2 地点)	うちほら 内原町字タテ 585-5	08305	059	36° 22' 04"	140° 21' 51"	2006.1.13	29.4	個人住宅建築
おむくし 大串遺跡 (第 6 地点)	おむくし 大串町 610-2, 610-4, 610-5, 610-6	08201	176	36° 22' 02"	140° 32' 36"	2005.4.6	3.8	個人住宅建築
おがまち 大鋸町遺跡 (第 3 地点)	もとよしだ 元吉田町 2776-1 ~ 2282-3 (市道浜田 207 号線)	08201	011	36° 21' 19"	140° 29' 08"	2005.6.24	10	宅地造成工事
おがまち 大鋸町遺跡 (第 4 地点)	もとよしだ 元吉田町字狐塚 2341-8, 2341-9	08201	011	36° 21' 19"	140° 29' 08"	2005.6.9	1	個人住宅建築
おがまち 大鋸町遺跡 (第 5 地点)	もとよしだ 元吉田町字狐塚 2280-12	08201	011	36° 21' 19"	140° 29' 08"	2005.11.9	92.7	宅地造成工事
かぐらいただ 加倉井忠光館跡 (第 1 地点)	なると 成沢町 466-2	08201	207	36° 25' 55"	140° 23' 57"	2005.4.18	4	資材置場建築
かまほらにんじや 笠原神社古墳 (第 1 地点)	わたり 渡里町字小山ノ上 2413-4	08201	230	36° 24' 12"	140° 26' 41"	2005.7.7 ~ 7.28	28.1	共同住宅建築
かまほらすいどう 笠原水道 (第 20 地点)	せんば 千波町 1263 (都市計画道路 3・4・8 号線)	08201	174	36° 21' 45"	140° 28' 00"	2005.6.30	4.6	道路新設
かまほら 釜神町遺跡 (第 1 地点)	かまほら 備前町 768-2	08201	020	36° 22' 25"	140° 27' 46"	2006.3.17	2	個人住宅建築
かまくら 釜久保遺跡 (第 1 地点)	かまくら 大塚町字釜久保 1612-15	08201	124	36° 23' 16"	140° 23' 47"	2006.1.17	2	共同住宅建築
かわわだ 河和田城跡 (第 2 地点)	かわわだ 河和田町 1019	08201	102	36° 22' 02"	140° 24' 45"	2006.3.29	6	貯水槽建設
きょうづか 経塚遺跡 (第 1 地点)	かわわだ 河和田町 1109	08201	274	36° 21' 56"	140° 24' 31"	2005.10.25	81	共同住宅建築
きょうづか 経塚遺跡 (第 2 地点)	かわわだ 河和田町字西宿 1082-1	08201	274	36° 21' 56"	140° 24' 31"	2005.12.14 ~ 12.19	91	共同住宅建築
くんにんざか 軍民坂遺跡 (第 1 地点)	かみくに 上国井町 3585-1	08201	046	36° 26' 34"	140° 26' 43"	2005.8.8	2	個人住宅建築
こいぼり 鯉淵城跡 (第 1 地点)	こいぼり 鯉淵町字三ノ割 3110-2	08201	276	36° 20' 49"	140° 22' 20"	2005.12.7	12	個人住宅建築
こばやし 小林遺跡 (第 1 地点)	こばやし 小林町字富士前 398-2 外	08201	276	36° 21' 25"	140° 20' 52"	2005.12.7	10	個人住宅建築
こんごうじ 金剛寺遺跡 (第 1 地点)	ひらくえ 開江町字馬場西 387-12	08201	134	36° 24' 05"	140° 23' 46"	2005.11.15	4	個人住宅建築
こんごうじ 金剛寺遺跡 (第 2 地点)	ひらくえ 開江町字馬場西 387-52 外	08201	134	36° 24' 05"	140° 23' 46"	2005.11.24	13.9	個人住宅建築
こんごうじ 金剛寺遺跡 (第 3 地点)	ひらくえ 開江町字馬場西 387-51	08201	134	36° 24' 05"	140° 23' 46"	2005.11.24	21.9	個人住宅建築
こんごうじ 金剛寺遺跡 (第 4 地点)	ひらくえ 開江町字馬場西 387-31 外	08201	134	36° 24' 05"	140° 23' 46"	2006.2.8	4	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
金剛寺遺跡 (第5地点)	開江町字馬場西 387-55 外	08201	134	36° 24′ 05″	140° 23′ 46″	2006.2.8	4	個人住宅建築
金剛寺遺跡 (第6地点)	開江町字馬場西 387-1	08201	134	36° 24′ 05″	140° 23′ 46″	2006.3.27	4	個人住宅建築
下畑遺跡 (第2地点)	元石川町字山王脇 1584-6	08201	006	36° 19′ 29″	140° 29′ 57″	2006.3.14	4.28	個人住宅建築
湿点遺跡 (第2地点)	鯉淵町字三ノ割 2802-5	08305	025	36° 21′ 01″	140° 22′ 12″	2005.5.25	2	個人住宅建築
下荒匂遺跡 (第1地点)	双葉台 4丁目 143-100, 101	08201	066	36° 23′ 44″	140° 24′ 00″	2005.12.27	11.7	個人住宅建築
下野遺跡 (第2地点)	下野町字潤池 289-29, 289-30	08305	021	36° 20′ 01″	140° 22′ 21″	2005.4.28	2	個人住宅建築
下本郷遺跡 (第1地点)	千波町字東久保 14-31, 14-33	08201	012	36° 21′ 55″	140° 27′ 50″	2005.9.8	4	個人住宅建築
周知外 (小林町地内)	小林町字小林 1200-204	—	—	36° 21′ 09″	140° 21′ 07″	2005.7.12	30	個人住宅建築
周知外 (木葉下町地内)	木葉下町 836-1 外	—	—	36° 25′ 24″	130° 21′ 02″	2005.9.7	5	砂利岩石採掘
宿西遺跡 (第1地点)	鯉淵町字三ノ割 3209-1	08201	129	36° 20′ 48″	140° 22′ 04″	2006.3.20	4	基地局建設
高原古墳群 (第1地点)	大場町字後原 1031-4	08201	242	36° 19′ 53″	140° 32′ 01″	2005.6.23	3.8	個人住宅建築
竹ノ内遺跡 (第1地点)	内原町字竹ノ内 1498- 166, 1498-176	08305	112	36° 12′ 39″	140° 21′ 21″	2005.6.15	1	個人住宅建築
竹ノ内遺跡 (第2地点)	内原町字タテ 1498-166, 1498-176	08305	112	36° 12′ 39″	140° 21′ 21″	2006.1.13	6	個人住宅建築
台渡里廢寺跡 (第26次)	渡里町字前原 2874-1 外	08201	098	36° 24′ 30″	140° 26′ 00″	1次 2005.8.24 ~ 10.7 2次 2005.12.13 ~ 12.28	1,636.5	商業施設建設
長者山城跡 (第1地点)	渡里町字長者山 3154-9, 3154-55	08201	100	36° 24′ 40″	140° 26′ 00″	2005.11.1	2	個人住宅建築
仲根遺跡 (第1地点)	田野町 1013-52	08201	210	36° 24′ 37″	140° 24′ 44″	2005.11.1	2	個人住宅建築
中河内遺跡 (第1地点)	中河内町 196-2, 211-2	08201	065	36° 24′ 22″	140° 27′ 36″	2005.9.22	3.9	個人住宅建築
長嶋遺跡 (第1地点)	大足町 1039-2	08305	070	36° 23′ 10″	140° 22′ 12″	2005.10.20	2	個人住宅建築
西原古墳群 (第1地点)	渡里町字野木 3366-2, 3366-4, 3366-12	08201	080	36° 24′ 35″	140° 25′ 13″	2005.6.1	2	個人住宅建築
西原古墳群 (第2地点)	堀町字宮脇 47-2	08201	080	36° 24′ 35″	140° 25′ 13″	2005.9.13	5	個人住宅建築
西原古墳群 (第3地点)	堀町字宮脇 47-8	08201	080	36° 24′ 35″	140° 25′ 13″	2005.9.13	3.8	個人住宅建築
西原古墳群 (第4地点)	渡里町字野木 3387-121	08201	080	36° 24′ 35″	140° 25′ 13″	2005.11.8	2	個人住宅建築
西原古墳群 (第5地点)	堀町字馬場東 325-8 ~ 11, 326-6, 326-7	08201	080	36° 24′ 35″	140° 25′ 13″	2005.11.17	6	個人住宅建築
西原古墳群 (第6地点)	堀町字宮脇 49-17 ~ 20	08201	080	36° 24′ 35″	140° 25′ 13″	2005.12.1 ~ 12.2	32	個人住宅建築
西原古墳群 (第7地点)	堀町字馬場東 279-1	08201	080	36° 24′ 35″	140° 25′ 13″	2006.2.8	14.2	個人住宅建築
柁巻遺跡 (第1地点)	田島町字柁巻 420-5	08305	065	36° 23′ 47″	140° 22′ 08″	2005.12.22	5.8	個人住宅建築
東割遺跡 (第1地点)	東野町 154-1, 154-5	08201	156	36° 19′ 32″	140° 27′ 10″	2005.7.11	1.3	個人住宅建築
東割遺跡 (第2地点)	東野町字北割 35-3, 52-3, 52-5	08201	156	36° 19′ 32″	140° 27′ 10″	2005.11.18	4	個人住宅建築
東割遺跡 (第3地点)	東野町字中山 77-1	08201	156	36° 19′ 32″	140° 27′ 10″	2005.11.21	46.1	共同住宅建築
東割遺跡 (第4地点)	東野町字南割 141-9, 141-19	08201	156	36° 19′ 32″	140° 27′ 10″	2005.12.8	4	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地		コード		北緯 。′″	東経 。′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
			市町村	遺跡 番号					
東割遺跡 (第5地点)	東野町字南割 102-14		08201	156	36° 19′ 32″	140° 27′ 10″	2005.12.27	9.6	個人住宅建築
東割遺跡 (第6地点)	東野町字南割 102-1, 102-13		08201	156	36° 19′ 32″	140° 27′ 10″	2006.1.26	22	個人住宅建築
平塚遺跡 (第1地点)	田谷町字権現山 2391-1		08201	040	36° 26′ 04″	140° 26′ 49″	2005.5.31	2	個人住宅建築
藤井町遺跡 (第1地点)	藤井町字坂下 927-5		08201	032	36° 26′ 48″	140° 24′ 02″	2005.7.28	2	個人住宅建築
舞台遺跡 (第1地点)	三湯町字上枝 80-3		08305	089	36° 22′ 19″	140° 20′ 44″	2005.7.13	1.5	個人住宅建築
堀遺跡 (第3地点)	渡里町字高野台 3237-3 外		08201	064	36° 24′ 32″	140° 25′ 36″	1次 2005.5.12 2次 2005.7.19～ 8.10	356	宅地造成工事
堀遺跡 (第4地点)	堀町 426-8, 426-9の一部		08201	064	36° 24′ 32″	140° 25′ 36″	2006.2.1～2.2	81	宅地造成工事
万蔵寺遺跡 (第1地点)	鯉淵町字四ノ割 3515-1		08305	125	36° 20′ 48″	140° 21′ 39″	2006.2.21	1	店舗建設
水戸城跡 (第2地点)	三の丸 2-6-8		08201	172	36° 22′ 26″	140° 28′ 47″	2005.5.30	2	法面保護工事
水戸城跡 (第3地点)	三の丸 2-9-22		08201	172	36° 22′ 26″	140° 28′ 47″	2005.8.29～9.1	42.5	学校校舎改築
妙徳寺付近古墳群 (第1地点)	加倉井町字折戸 865-3, 865-7		08201	087	36° 23′ 20″	140° 22′ 40″	2005.11.29	3	個人住宅建築
向原遺跡 (第1地点)	有賀町 614		08305	082	36° 22′ 40″	140° 21′ 35″	2005.10.27	2	個人住宅建築
谷田古墳群 (第1地点)	酒門町 587-1		08201	069	36° 20′ 55″	140° 29′ 48″	2005.4.5	30	共同住宅建築
谷田古墳群 (第2地点)	酒門町字大塚 582-1		08201	069	36° 20′ 55″	140° 29′ 48″	2005.4.14	7	共同住宅建築
谷田古墳群 (第3地点)	酒門町 589-1の一部		08201	069	36° 20′ 55″	140° 29′ 48″	2006.2.15	4	共同住宅建築
谷田古墳群 (第4地点)	酒門町 587-1		08201	069	36° 20′ 55″	140° 29′ 48″	2006.3.15	19	共同住宅建築
横宿遺跡 (第1地点)	元吉田町 2649-54		08201	057	36° 21′ 09″	140° 29′ 17″	2005.11.11	4	個人住宅建築
米沢町遺跡 (第1地点)	千波町字中道南 1503 外		08201	058	36° 21′ 13″	140° 28′ 05″	2005.8.11～8.19	132	宅地造成工事
米沢町遺跡 (第2地点)	千波町字中道南 1502-3		08201	058	36° 21′ 13″	140° 28′ 05″	2006.1.30	24	個人住宅建築
米沢町遺跡 (第3地点)	千波町字中道南 1502-3		08201	058	36° 21′ 13″	140° 28′ 05″	2006.1.30	42	個人住宅建築
竜開遺跡 (第1地点)	三湯町字竜開 1108-421		08305	113	36° 21′ 51″	140° 20′ 50″	2005.8.10	2	個人住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
坪遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・古墳・ 奈良・平安	なし			縄文土器, 土師質土 器, 陶器			
坪遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・古墳・ 奈良・平安	なし			縄文土器, 土師器, 須恵器, 礫			
江川館跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安	なし			なし			
江川館跡 (第2地点)	集落跡	古墳・奈良・ 平安・近世	なし			なし			
大串遺跡 (第6地点)	集落跡	縄文・古墳・ 奈良・平安	なし			なし			
大鋸町遺跡 (第3地点)	集落跡	先土器・縄文・ 弥生・古墳・ 奈良・平安・ 中世・近世	溝			須恵器, 陶器, 土師 質土器			
大鋸町遺跡 (第4地点)	集落跡	先土器・縄文・ 弥生・古墳・ 奈良・平安・ 中世・近世	なし			なし			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大鋸町遺跡 (第5地点)	集落跡	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	なし	
加倉井忠光館跡 (第1地点)	集落跡	中世・近世	なし	土師器・須恵器(奈良・平安)	
笠原神社古墳 (第1地点)	古墳	古墳	土坑, ビット	縄文土器, 土師器, 須恵器, 陶器, 礫	
笠原水道 (第20地点)	水道跡	近世	なし	なし	
釜神町遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・近世	なし	縄文土器, 土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 磁器, 礫	
釜久保遺跡 (第1地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	なし	土師器	
河和田城跡 (第2地点)	城館跡	中世	なし	なし	
経塚遺跡 (第1地点)	集落跡	中世・近世	なし	なし	
経塚遺跡 (第2地点)	集落跡	中世・近世	堀, 地下式坑, 土坑	土師器, 須恵器, 土師質土器, 内耳土器, 陶器, 砥石, 礫	中世の河和田城跡に関連するとみられる堀や地下式坑, 土坑などが確認されたことから, 河和田城跡の土地利用が現在の指定範囲よりも広域に広がっていたことが明らかとなった。
軍民坂遺跡 (第1地点)	集落跡	先土器・縄文・弥生・奈良・平安	土坑	縄文土器, 土師器, 須恵器, 礫	
鯉湖城跡 (第1地点)	城館跡	中世	なし	なし	
小林遺跡 (第1地点)	包蔵地	古墳・奈良・平安・中世	なし	なし	
金剛寺遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
金剛寺遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
金剛寺遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
金剛寺遺跡 (第4地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
金剛寺遺跡 (第5地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
金剛寺遺跡 (第6地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	なし	なし	
下畑遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・古墳	土坑	縄文土器, 剥片	
湿気遺跡 (第2地点)	包蔵地	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	なし	
下荒句遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・古墳	溝跡	縄文土器	
下野遺跡 (第2地点)	包蔵地	縄文・奈良・平安	なし	縄文土器, 土師質土器, 瓦質土器, 礫	
下本郷遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文	なし	なし	
周知外 (小林町地内)	—	—	なし	なし	
周知外 (木葉下町地内)	—	—	なし	なし	
宿西遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・奈良・平安	なし	なし	
高原古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	なし	弥生土器, 土師器, 須恵器, 軒平瓦, 礫	
竹ノ内遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	陶器, 磁器, 土師質土器	
竹ノ内遺跡 (第2地点)	包蔵地	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	なし	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
台渡里廃寺跡 (第26次)	廃寺跡	先土器・縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝、井戸	縄文土器、土師器、須恵器、内耳土器、土師質土器、鉄製品、砥石	7世紀後葉に遡るとみられる竪穴住居跡や掘立柱建物跡が多数確認され、観音堂山地区の初期寺院や那賀郡衙の造営に伴う集落の一部であったとみられる。また、掘立柱建物跡と重複する南方地区の東側寺院地区画溝も確認され、これまで指摘されていた9世紀後葉以降の造営年代を遡認する結果が得られた。さらに中世の掘立柱建物跡や井戸跡も確認され、長者山城跡に係る土地利用が台地上に広く展開していたことも明らかとなった。
長者山城跡 (第1地点)	城館跡	中世	溝	なし	
仲根遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	なし	なし	
中河内遺跡 (第1地点)	集落跡	古墳・奈良・平安・近世	なし	土師器、須恵器、鉄製品、磁器	
長嶋遺跡 (第1地点)	包蔵地	古墳・奈良・平安・中世・近世	なし	なし	
西原古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
西原古墳群 (第2地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
西原古墳群 (第3地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
西原古墳群 (第4地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
西原古墳群 (第5地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
西原古墳群 (第6地点)	古墳群	古墳	古墳周溝	埴輪、土師器、礫	墳丘の削平された円墳とみられる周溝が確認され、埴輪が出土したことから遅くとも6世紀代から墓域の形成が始まっていたことが明らかとなった。
西原古墳群 (第7地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
柘菴遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	なし	陶器、磁器、土師質土器	
東割遺跡 (第1地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	なし	なし	
東割遺跡 (第2地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	溝跡	土師器、須恵器	
東割遺跡 (第3地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	なし	なし	
東割遺跡 (第4地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	なし	なし	
東割遺跡 (第5地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	なし	なし	
東割遺跡 (第6地点)	集落跡	先土器・奈良・平安	なし	なし	
平塚遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳	なし	縄文土器、弥生土器、土師器、礫	
藤井町遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳	なし	なし	
舞台遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	なし	土師器、瓦質土器、鉄滓、礫	
堀遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	竪穴住居跡	土師器、須恵器	
堀遺跡 (第4地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	竪穴住居跡、土坑	縄文土器、須恵器、陶器、土師質土器	奈良・平安時代の竪穴住居跡が多数確認されるとともに7世紀後葉の遺物が出土する竪穴住居跡も確認された。これまで7世紀後葉の集落は台渡里廃寺跡や台渡里遺跡で確認されていたが、堀遺跡にも当該期の集落が広がっていたことが明らかとなった。
万蔵寺遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	なし	なし	
水戸城跡 (第2地点)	城館跡	中世・近世	整地層	陶器、磁器、近世瓦、ガラス、煉瓦、漆喰、礫	
水戸城跡 (第3地点)	城館跡	中世・近世	地下室、ピット、土坑、植栽痕	磁器、土器、近世瓦	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
妙徳寺付近古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
向原遺跡 (第1地点)	包蔵地	奈良・平安	なし	なし	
谷田古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	土坑	土師器, 陶器, 磁器, 瓦質土器, 礫	
谷田古墳群 (第2地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
谷田古墳群 (第3地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
谷田古墳群 (第4地点)	古墳群	古墳	なし	なし	
横宿遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳	なし	なし	
米沢町遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	遺物包含層, 桶埋設遺構, 溝跡, ピット群	縄文土器, 土師器, 須恵器, 瓦質土器, 礫	
米沢町遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	なし	縄文土器, 土師器, 須恵器, 陶器, 礫	
米沢町遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	なし	土師器, 須恵器, 陶 器	
竜岡遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・奈良・ 平安	なし	なし	

※北緯・東経は世界測地系による。

水戸市埋蔵文化財調査報告

第1集	台渡里廃寺跡—範囲確認調査報告書—	2005年3月発行
第2集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—	2005年4月発行
第3集	大鋸町遺跡 —グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2005年8月発行
第4集	台渡里廃寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)—	2006年3月発行
第5集	台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2005年3月発行
第6集	吉田古墳Ⅰ—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第3次調査報告書—	2006年3月発行
第7集	大鋸町遺跡(第3地点) —市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第8集	坏遺跡(第3地点) —ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第9集	坏遺跡(第4地点) —プランタンコリーヌⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第10集	吉田古墳Ⅱ —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書—	2007年3月発行
第11集	平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2007年3月発行

水戸城跡	三の丸土塁および堀の復旧に伴う工事・調査報告書	2006年9月発行
------	-------------------------	-----------

水戸市埋蔵文化財調査報告 第11集

平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 平成19年3月27日
発行 平成19年3月27日
編集 水戸市教育委員会
発行 水戸市教育委員会
印刷 株式会社 二鶴堂印刷所
水戸市千波町2770-4
TEL 029-243-1388

